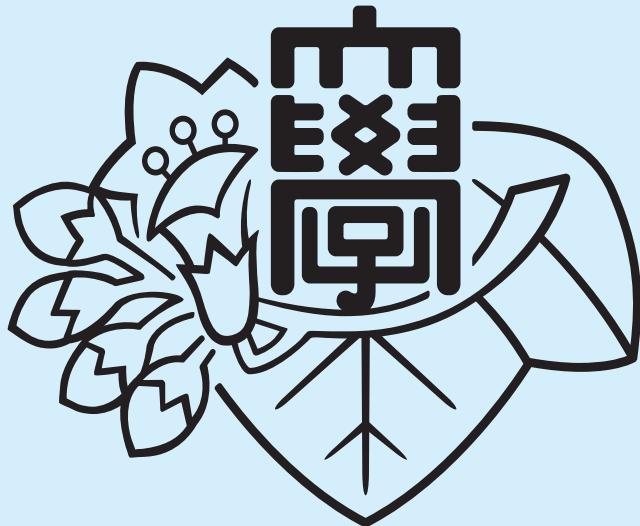


岩手大学保健管理センター紀要

第51・52合併号



令和8年2月

岩手大学保健管理センター

序 文

岩手大学保健管理センター長

小野田 敏 行

令和5年度（2023年度）は5月8日にCOVID-19感染症が感染症法上の2類から5類に変更されたことから、当センターでも窓口閉鎖を解除して通常の対応としました。ただし、発熱等で来所した方には先ず電話連絡して頂いてから保健師がセンターの外で対応する形としました。他、令和4年度には中止となっていた盛岡市郊外のつなぎ温泉までのロードレース大会（希望者が参加、学生は定期健康診断受診済を条件とするもので当センターも救護を担当）も無事開催される等、COVID-19以前の日常を取り戻しつつあった年でした。

学生の当センター利用件数も、令和3年度、4年度では内科という分類でそれぞれ3,389件、4,118件と令和2年度の978件に対して急増していましたが、令和5年度には497件と落ち着きました。しかし、相談という分類では令和3年度から4年度の1,642件、1,244件に対して1,899件とむしろ増えていました。

学生相談室の利用状況では、専任カウンセラーが一時期不在となったこともあって、のべ来談者数が令和3年度から4年度の2,853名、2,759名に対して2,223名と少し減少しました。

いずれ、令和5年度もスタッフにはやはりかなりの負担をかけていたかと思います。前巻でも申し上げましたが、全国での労働災害統計が一変するほどのインパクトがあったパンデミックの中で、体調を整え対応を続けて頂きましたこと、感謝いたします。

令和6年度（2024年度）は、変な言い方ですが日常が日常となってきた年のように思います。しかしながら、この年も引き続きコロナ対策として、学部2年生以上の定期健康診断は身体測定と問診票の記入を自ら行ってもらって提出する方式としました。記載内容について全例確認し、必要と思われた場合には個別に連絡して内科診察を実施しました。

この他、保健管理センターでの業務はほぼ通常通り実施しましたが、近年の傾向として、コロナ禍でやや変動はあったものの、相談者、来所者が増加し続けており、頻繁に体調不良となる学生や、学業の継続が難しくなってきたような学生もしばしば来所することから、この年もセンターは大いに賑わいました。

そんな中で、12月いっぱいで永年務めて頂いておりました長沼保健師が当センターを定年退職することになりました。長沼保健師は学生や職員への対応はもちろんのこと、特に平成27年に立身政信前センター長のもとで開催された第53回全国大学保健管理研究集会では八面六臂の活躍だったと聞いております。本当にありがとうございました。

当センターの大きな戦力ダウンとなります、幸い、後任として上家保健師に着任頂きました。上家保健師は保健師業務や臨床での医療業務の経験がある方で即戦力として頼りにしているところです。なお、長沼保健師も今後、学生特別支援室の医療職員として勤務されますので、学生特別支援室との連携もこれまで以上に図れるかと期待しています。

以上のような体制で、今後も学生や職員の健康面のサポートに努めて参ります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願ひ致します。

第 51 号

目 次

I 研究報告

- 障害学生に有効な支援の検討（2）
一支援学生の増加による変化—
早坂浩志、新村 曜… 3

II 令和5年度(2023)業務報告

1. 保健管理センターこの一年…………… 9
2. 健康相談…………… 11
3. 学生相談室活動報告…………… 13
4. 学生定期健康診断…………… 16
5. 職員定期健康診断…………… 20
6. 特殊健康診断等…………… 24
7. その他の健康診断…………… 24
8. 救護活動…………… 25
9. 健康教育・増進活動…………… 26
 - 1) 健康セミナー…………… 26
 - 2) 禁煙支援…………… 26
 - 3) 性の健康教育…………… 27
 - 4) 講義・講演…………… 28
10. 他部局との共催及び地域貢献…………… 29
 - 1) 共催…………… 29
 - (1) AED講習会 …… 29
 - (2) FD・SD研修会 …… 29
 - 2) 地域貢献…………… 29
 - (1) 実習生の受け入れ…………… 29
 - (2) 学外委員会所属状況…………… 30

III 令和5年度(2023)保健管理センターの現況

1. 保健管理センター運営委員会…………… 31
 - 1) 委員会名簿…………… 31
 - 2) 開催記録…………… 31
2. 学内委員会所属状況…………… 32
3. 学会・研修会等出席状況…………… 33
4. 保健管理センター職員名簿…………… 34

►本誌の数表の記号

その事象が出現する可能性をもっているが、 統計上出現しない場合	—
その事象が出現することは、本質的にありえ ない場合	・
上記以外の統計数がない場合又は統計数を表 章することが不適当な場合（分母が10未満）	…

I 研究報告

障害学生に有効な支援の検討（2）－支援学生の増加による変化－

早坂浩志

新村 晓

(岩手大学保健管理センター) (岩手大学学生特別支援室)

1. はじめに

早坂・新村（2022）は、障害学生支援の有効性について①支援に対する学生の評価、②支援を受けた学生の卒退学や進路の転帰、の2つの観点から検討を行った。その際、①については本学において特別支援認定された障害学生（以下「支援学生」とする）のうち2020年度支援学生にアンケート調査を行い、②は2016年度から2020年度までの5年間に卒退学した支援学生の分析を行った。アンケート調査の結果、回答した32名の支援学生の全員が支援に満足していて、障害種に関係なく学生が障害学生支援部署に求めるのは学生の障害特性と必要な配慮を教員に伝えて理解を求めるうことと、学生の様々な悩みの相談に応じることであることが示された。また、卒退学や進路の転帰の分析では、対象となった49名の支援学生の90%が卒業していたが43%が進路未定のまま卒退学していたことから就労支援の必要性が示された。

その後、図1に示すように2023年前期終了時点の支援学生が2020年度に比較して1.4倍になるなど増加傾向が続き、そのことが支援に対する学生の評価や卒退学や進路の転帰に影響を与えていることが考えられる。そこで、早坂・新村（2022）と同様の手続きで調査・分析を行い、両者の結果の比較をとおして有効性の変化やこれからの課題への対応について考察することを目的とする。

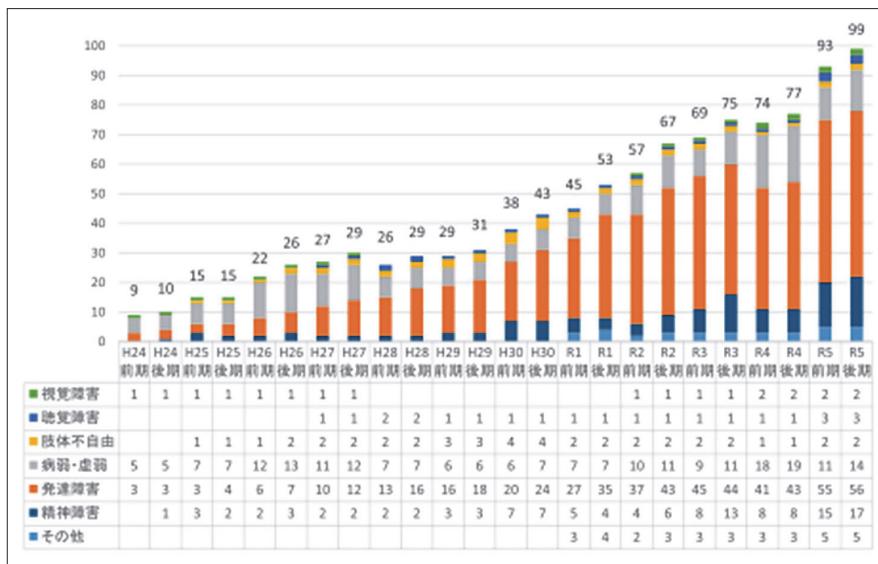


図1 大学に特別支援認定された障害学生の推移

2. 支援学生へのアンケート調査

(1) 目的

支援学生が本学の障害学生支援をどのように評価しているか、全体的評価、修学支援評価、障害学生支援部署である学生特別支援室（以下支援室と略す）による支援の評価の3点から把握する。

(2) 対象と方法

2023年2月時点での在学中の支援学生77名を対象に記名式のWebアンケート調査を実施した。3月までの回答期間内に回答があったのは53名で回答率は69%だった。そのうち発達障害や精神疾患がある学生（以下「発達・精神系」とする）は42名（79%）、肢体不自由等の身体の障害や疾患がある学生（以下「身体系」とする）は11名（21%）であった。

アンケートは①支援の全体的評価、②修学支援の評価、③支援室の評価、④支援に対する不満の4項目から成っていた。質問と回答の選択肢は以下のとおりであった。

①支援の全体的評価

質問：「支援を受けてどう思いましたか？」

回答：「大変満足」、「満足」、「どちらともいえない」、「不満」、「大変不満」から選択

②修学支援の評価

質問：「授業や勉強に関して支援を受けて良かったことは何ですか？」

回答（複数回答可）：「支援室から担当教員に配慮依頼をしてもらえた」、「欠席に対する配慮、提出物の期限延長、別室受験、遠隔受講等、教員に配慮をしてもらえた」、「支援室職員や学生チーフターに勉強を手伝ってもらえた」、「支援機器（拡大読書器、ICレコーダー、FM補聴器等）を貸与してもらえた」、「ノートテイカーの配置や移動介助等の支援を受けることができた」、「特になし」、「その他」

「支援機器（拡大読書器、ICレコーダー、FM補聴器等）を貸与してもらえた」、「ノートテイカーの配置や移動介助等の支援を受けることができた」の2項目は今回の調査で新たに加えた項目である。

③支援室の評価

質問：「支援室を利用して良かったことは何ですか？」

回答（複数回答可）：「履修相談やスケジュール作成・管理等のサポートを受けることができた」、「困りごとやわからないことがあるときに相談することができた」、「支援室を休憩したり、勉強したりする場所として利用できた」、「他の利用学生と勉強について相談したり、交流することができた」、「必要がなかったので、支援室をあまり利用しなかった」、「特になし」、「その他」

「必要がなかったので、支援室をあまり利用しなかった」は今回の調査で新たに加えた項目である。

④支援に対する不満

質問：「支援を受けて不十分だと思うことはありますか？」

回答（複数回答可）：「教員によって配慮してくれる場合とそうでない場合がまちまちだった」、「希望していた支援を受けることができなかった」、「相談予約をとれず、相談したい時にできない時があった」、「支援室がせまい、人が多くて入りづらい」、「特になし」、「その他」

(3) 結果

前回の早坂・新村(2022)の結果と比較しながら結果を示す。支援の全体的評価は「大変満足」が36名(68%)、「満足」が13名(24%)、「どちらともいえない」が4名(8%)であった。「大変満足」は前回の53%から増加したが、前回はなかった「どちらともいえない」を選択した学生もいた。

修学支援の評価は、図2と図3に示すとおり、前回調査と同じく「支援室から教員への配慮依頼」が最も多くの学生に評価され、続いて「教員に配慮してもらえた」が多かったが、前回に比べて「支援室から教員への配慮依頼」を選択した学生が減って「教員から配慮してもらえた」を選択した学生が増加していた。また、前回調査では χ^2 検定で「職員やチーフターの学習支援」は身体系の学生に比べて発達・精神系の学生に有意($p < .05$)に多く選択されていたが、今回はやや減少し、有意傾向($p = .08$)だった。

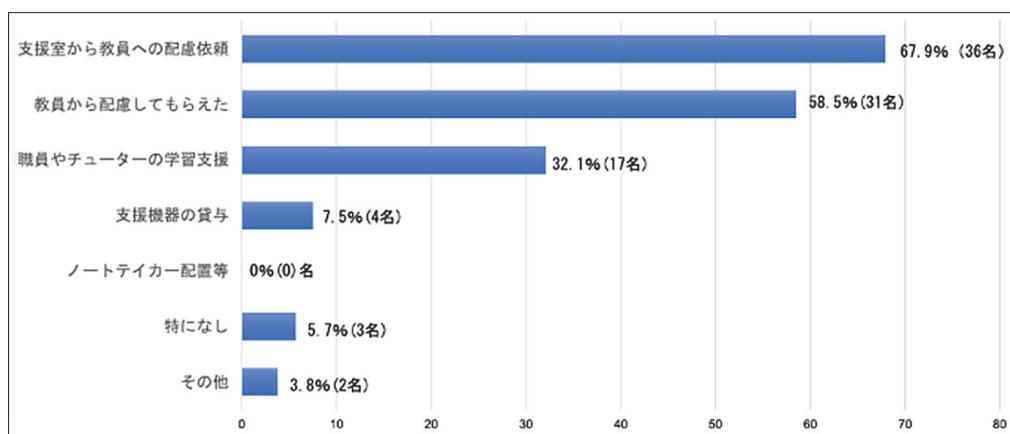


図2 修学支援の評価

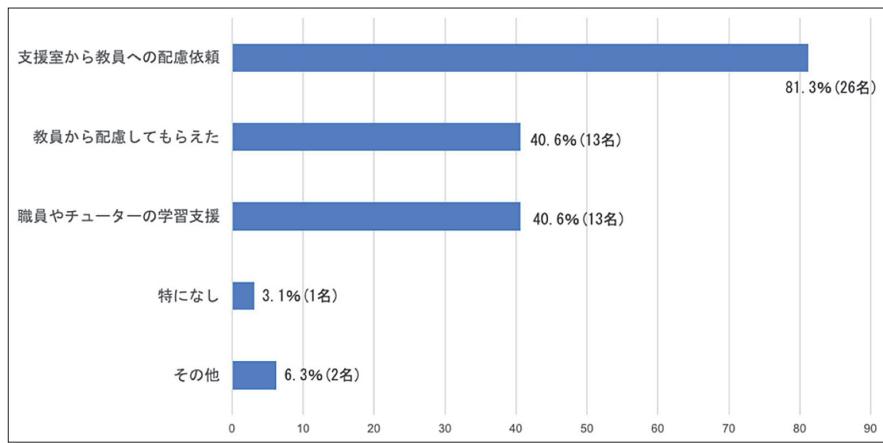


図3 前回調査の修学支援の評価

支援室の支援の評価は、図4と図5に示すとおり、前回調査と同じく「困った時に相談にのってもらえた」が最も多くの学生に評価され、続いて「履修相談やスケジュール管理をしてもらえた」が多かったが、前回調査に比べて「困った時に相談にのってもらえた」を選択した学生がやや減った。また、 χ^2 検定の結果、身体系の学生に比べて発達・精神系の学生は「履修相談やスケジュール管理をしてもらえた」($p < .05$)、「支援室が休憩・勉強の場になった」($p < .01$)、「他学生と交流できた」($p = .09$)を多く選択していた。「支援室が休憩・勉強の場になった」は前回調査で同じ傾向があったが、それ以外は新たに見出された傾向であった。一方「必要がなかったので利用しなかった」は身体系の学生に多く選択されていた($p < .05$)。

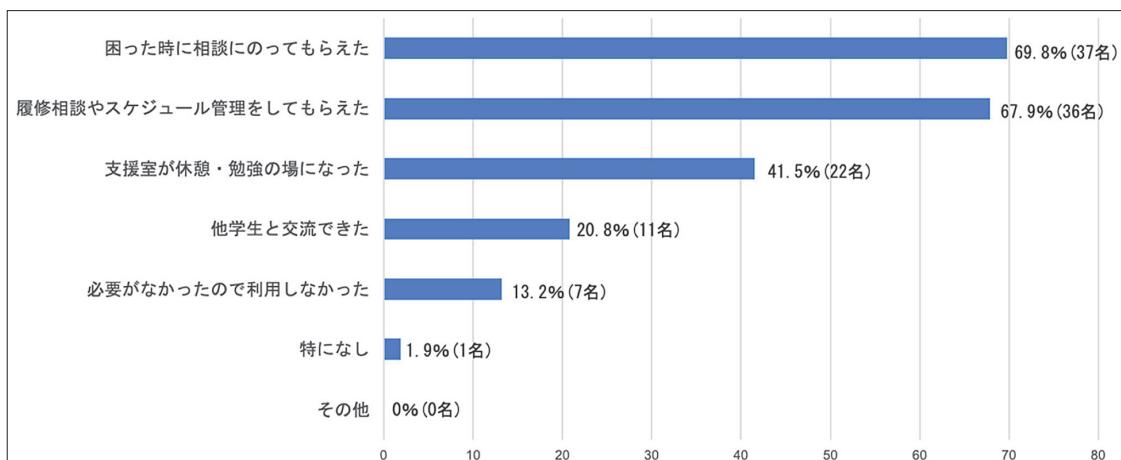


図4 支援室の支援の評価

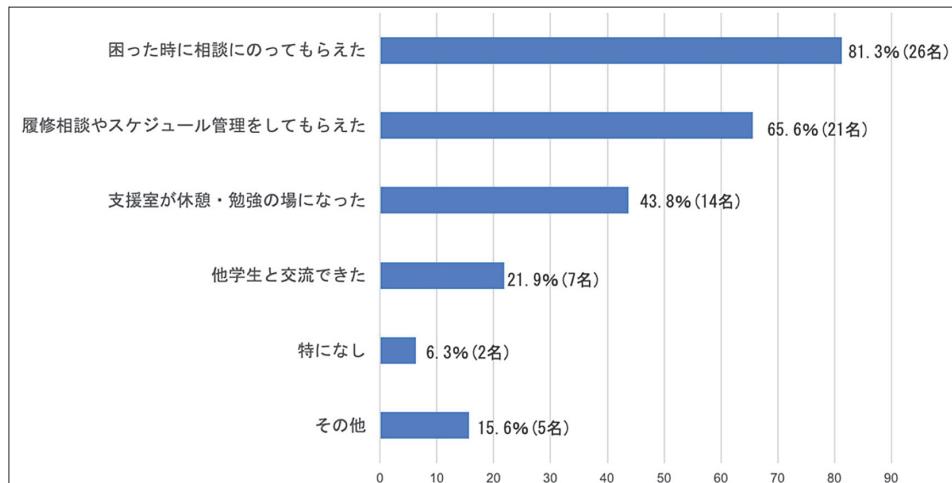


図5 前回調査の支援室の支援の評価

支援に対する不満は、図6と図7に示すとおり、前回調査と同じく「特になし」が最も多いが、前回と比較して「支援室がせまい、人が多くて入りづらい」がやや増え「教員による配慮の違い」が減っていた。

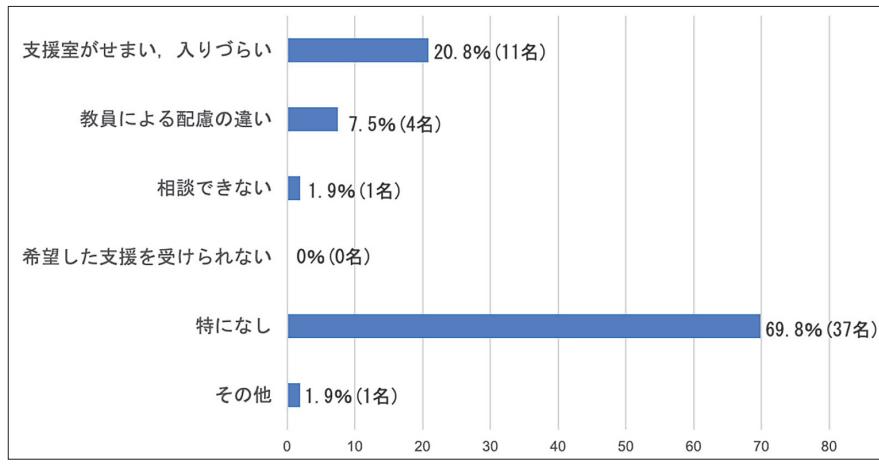


図6 支援に対する不満

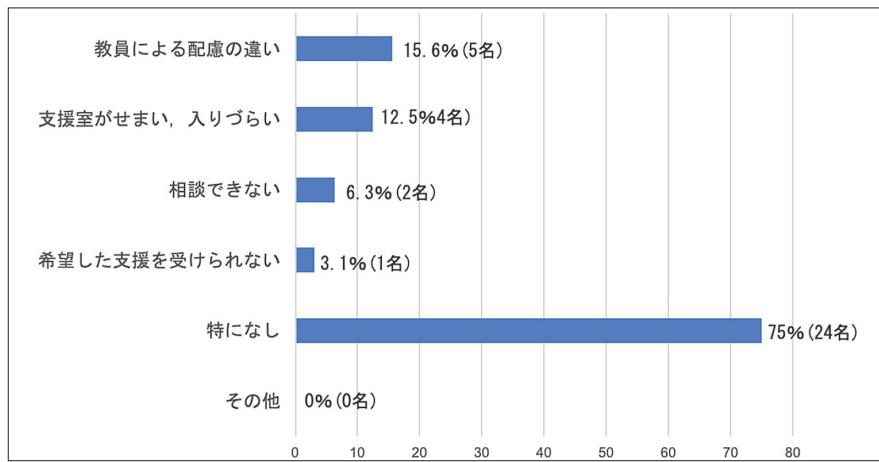


図7 前回調査の支援に対する不満

3. 卒業・退学した支援学生の分析

(1) 目的

支援学生の卒退学状況および進路状況を把握し、学生や支援の特徴との関連を分析する。

(2) 対象と方法

2021年度から2023年度前期までの2年半に卒業または退学した支援学生35名を分析の対象とした。内訳は発達・精神系が31名（89%）、身体系が4名（11%）だった。この35名について、卒退学や進路、支援状況等について集計を行い、以下の項目との関連の分析を行った。

- ・留年や休学経験の有無、支援開始学年と支援期間、支援室コーディネーターとの個別相談の頻度、支援室スペースの利用頻度、保健管理センター利用の有無、学内キャリア支援や学外就労支援機関の利用の有無、障害者手帳の有無、障害者雇用の利用の有無

(3) 結果

前回の早坂・新村（2022）の結果と比較しながら結果を示す。図8に示すとおり、35名中22名（63%）の学生が卒業し、13名（37%）が退学していた。進路は17名（49%）が就職または進学が決定していたが、18名（51%）が未決定のまま卒業・退学していた。図9の前回調査と比較すると、卒業した学生の割合は90%から約63%と大きく減少し、とくに進路未定のまま退学した学生が6%から29%と増加していた。

退学者と進路未決定者はすべて発達・精神系の学生だったことから、発達・精神系の学生を対象に、卒退学、進路状況と他の項目との関連を χ^2 検定により分析した。その結果、コーディネーターとの個別相談が多かつ

た学生は卒業している傾向が見出された ($p < .05$)。

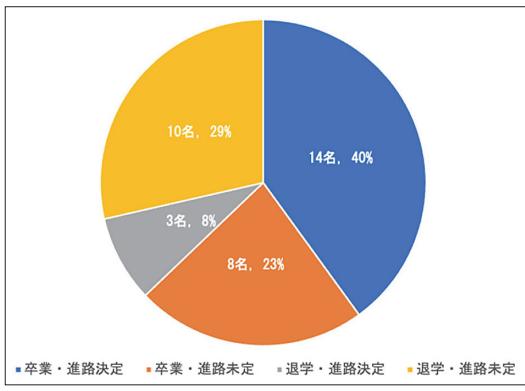


図8 支援学生の転帰

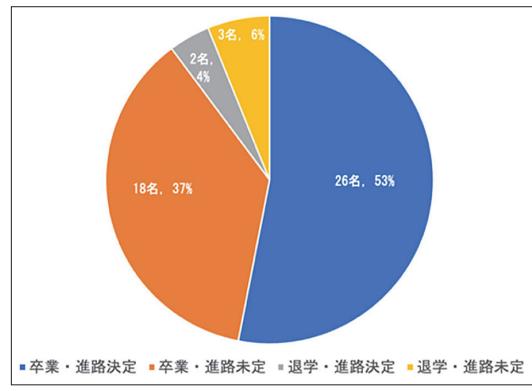


図9 前回調査の支援学生の転帰

4. 考察

(1) 学生が評価する支援

修学支援については、「支援室から教員への配慮依頼」、「教員に配慮してもらえた」の順で評価する学生が多かったのは前回調査と変わらなかったが、「支援室から教員への配慮依頼」を選択した学生が減って「教員から配慮してもらえた」を選択した学生が増加していた。これは学生側の合理的配慮を受ける権利、教員側の提供する義務の認識が浸透してきた表れではないかと考える。つまり、合理的配慮の考え方が浸透して、教員に対して配慮を求めることが当然の権利として学生がとらえ、教員側も配慮する義務について理解してきたということである。支援に対する不満についての回答において「教員による配慮の違い」が減っていたこともその表れと考えられる。以上のことから、教員の配慮を受けられることがもっとも学生が望んでいる修学支援であるといえる。また、前回とは異なり、「職員やチーフターの学習支援」を評価する発達・精神系学生が身体系の学生と比較して多くはなかったことは、不登校の発達・精神系学生が増加したことが関連していると考えている。つまり、チーフター等の個別学習支援を行うには学生が登校して授業を受けたり支援室に来られる状況にあることが前提になるが、その状況に至らない不登校学生が増加しているわけである。

次に支援室による支援について考察する。「困った時に相談にのってもらえた」、「履修相談やスケジュール管理をしてもらえた」の順で評価する学生が多かったのは前回調査と変わらなかったが、「困った時に相談にのってもらえた」を選択した学生が減っていた。これは支援学生の増加により支援室コーディネーターの相談件数が増加しているため、結果的に十分な相談機会がとれない学生が生じてきている表れかもしれない。あるいは、前述したように相談することもできない不登校学生が増えていることもあるかもしれない。また、とくに発達・精神系の学生にとって支援室は相談機能以外にも「支援室が休憩・勉強の場になった」、「他学生と交流できた」といった居場所機能があり、その役割はこれまで以上に重要になっていることが明らかになった。しかしその一方で支援に対する不満についての回答において「支援室がせまい、入りづらい」が増えたことは、支援学生の増加によりスペースが足りなくなってきたことを示している。以上のことから、支援室が相談しやすく居場所となることが学生が望む支援であるといえる。支援学生が増加傾向にある中、今後も支援室の相談機能と居場所機能を維持するには2つの対策が考えられる。一つは支援室のスタッフの増員とスペースの拡充である。もう一つは保健管理センターとの分担と連携の強化である。現在でも支援学生には保健管理センターの保健師やカウンセラーも並行して支援している学生も多いため、学生の特性やニーズに応じて保健師やカウンセラーによる支援をさらに強めることにより支援室コーディネーターの負担を減らすことができるのではないか。

(2) 卒業や進路決定に有効な支援

前回調査と比較して支援学生の卒業率、進路決定率ともに低下していた。とくに発達・精神系学生への支援について課題があることが示された。その背景には、支援学生の増加による支援室のキャパシティの問題だけではなく、前述したように、低年次から不登校になり、修学支援や支援室による支援をあまり受けないまま休退学してしまう発達・精神系の学生の増加があるのではないかだろうか。支援室コーディネーターとの

個別相談が多かった発達・精神系の学生は卒業している傾向が見出されたが、これは密に相談したから卒業できたというよりも、単位がとれるほど登校できる学生は密に相談できて、それにより適切な支援も可能になって、さらに卒業が近くなるという解釈が妥当ではないかと考えている。こうした不登校学生には支援室コーディネーターや保健管理センタースタッフが電話やメールで声掛けしたり保護者にも連絡するなどして対応するわけだが、授業に行けるようになるには至らず、時間だけが過ぎて卒業の見込みがなくなってしまい、今後の進路について相談にのる機会もなく進路未定のまま休退学してしまう。支援室の主たる業務は卒業を目指した修学支援ではあるが、障害特性や性格上の適性や、学習意欲がわからないなどの理由で大学の授業や一人暮らしに合わない学生もいて、こうした学生が増加してきてるのであれば、修学支援と並行しての早期からのキャリア支援が今後の課題となるだろう。たとえば学生とその保護者に低年次から就職活動に関する情報提供をおこなったり、外部就労支援機関と連携してキャリアに関する自己理解を深める取組が考えられる。

*本研究は、日本学生相談学会第42回大会（2024年5月26日、仙台）での発表に新たな考察を加えて論文化したものである。

引用文献

早坂浩志,新村暁.障害学生に有効な支援の検討－支援学生へのアンケート調査と卒業・退学学生の分析－. CAMPUS HEALTH 2022;59(2):70-76.

II 令和5年度(2023)業務報告

1. 保健管理センターこの一年
2. 健康相談
3. 学生相談室活動報告
4. 学生定期健康診断
5. 職員定期健康診断
6. 特殊健康診断等
7. その他の健康診断
8. 救護活動
9. 健康教育・増進活動
10. 他部局との共催及び地域貢献

1. 保健管理センター　この一年

令和5年度 (2023)

- ・コロナ感染症の対応が、5月に2類から5類（インフルエンザ同様の扱い）に変更となったことにより、感染防止に留意しながらもほぼ通常の活動となった。

4月

※保健管理センター窓口閉鎖中・緊急対応のみ

- ・4月中 理工学部安全訓練
(化学理工学実験Ⅱ担当教職員ならびにTA、生命コース3年生) オンデマンド配信
- ・7日 入学式救護
- ・11・12日 新入生学生定期健康診断
- ・13・14日 新入生学生定期健康診断再検査
- ・19日 職員定期健康診断（加賀野地区）
- ・24日 雇入れ時健康診断／新入生学生定期健康診断未受診者胸部X線検査
- ・26日 蜂抗体検査（森林学科①）

5月

※保健管理センター窓口閉鎖解除し通常再開。ただし、発熱等の外来者は入口外での対応とした。

- ・9・11日 職員定期健康診断尿再検査
- ・11日 岩手医科大学生公衆衛生学実習
- ・22日 蜂抗体検査（職員・森林学科②）
- ・23日 職員定期健康診断結果配布（加賀野地区）
- ・27日 ロードレース大会救護
- ・5／31～6／6 世界禁煙デー＆エイズ検査普及週間イベント開催

6月

- ・19日 第1回保健管理センター運営委員会
- ・20日 全国大学保健管理協会総会（Web開催）
- ・21日 振動・騒音特殊健康診断

7月

- ・3日 岩手医科大学生公衆衛生学実習
- ・6日 人文社会科学部心理実習
- ・21日 第60回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会（東北大）オンライン開催
- ・25・26日 有機溶剤・特定化学物質特殊健康診断（第1回）、電離放射線殊健康診断（R新規）
- ・31日 総合科学研究科心理実践実習

8月

- ・2日 有機溶剤・特定化学物質特殊健康診断（第1回）、電離放射線殊健康診断（X線新規）
- ・7日 人文社会科学部心理実習・総合科学研究科心理実践実習
- ・8日 オープンキャンパス救護
- ・23日 人文社会科学部心理実習

9月

- ・9月中 理工学部安全訓練（化学理工学実験Ⅱ担当教員ならびにTA） オンデマンド配信
- ・4～8日 職員定期健康診断（上田地区）
- ・20・25・26日 職員定期健康診断尿再検査
- ・29日 職員子宮頸がん検診

10月

- ・2日 10月入学新規留学生健康診断
- ・4・5日 第61回全国大学保健管理研究集会（金沢大学）対面開催
- ・11日 職員定期健康診断結果配布（上田地区）
- ・12日 麻疹抗体検査（来年度教育実習予定者対象）、電離放射線特殊健康診断（新規X線獣医学科、RI）
- ・18日 ボクシング部健康診断
- ・20・26日 電離放射線特殊健康診断（RI新規）
- ・21・22日 不来方祭救護
- ・24日～ 麻疹抗体検査結果配布

11月

- ・2・22日 VDT特殊健康診断
- ・7日 防災訓練（3丁目南地区）

12月

- ・12月中 ストレスチェック産業医面接／長時間労働者産業医面談
- ・1～25日 世界エイズデー 啓蒙活動
- ・1日 ボクシング部健康診断
- ・12・20日 振動・騒音特殊健康診断
- ・14日 電離放射線特殊健康診断（RI新規）
- ・18日 釜石キャンパス硫化水素事故により巡回等実施
- ・19・20日 職員乳がん検診
- ・27日 大学入学共通テストに向けての岩手日報の取材（センター長）

1月

- ・13・14日 大学入学共通テスト救護
- ・16・17・23・26日 有機溶剤・特定化学物質特殊健康診断（第2回）

2月

- ・14日 附属校園養護教諭との保健管理に関する会議（オンライン）
- ・19・29日 特定業務従事者健康診断第2回定期健康診断
- ・19・29日 電離放射線特殊健康診断（RI新規）
- ・27日 第2回保健管理センター運営委員会

3月

- ・1日 特定業務従事者健康診断第2回定期健康診断
- ・1・18・21日 電離放射線特殊健康診断（RI新規）
- ・13日 獣医師資格申請のための健康診断
- ・22日 修了式・卒業式救護

*各種健診、医療講習会についての詳細は、（II-4・5、II-9-1）各業務報告参照。

*入試関係の救護は省略（II-8救護活動参照）。

2. 健康相談

1) 健康相談・学生相談日程

担当	連絡先	場所	曜日	利用時間
I 健康相談 医師 小野田 敏行 保健師 長沼 敦子 保健師 茅平 鈴子 保健師 阿部 智子	019-621-6074 E-mail : kenkou@iwate-u.ac.jp	学生センターA棟1階 保健管理センター	月 金	9:00~17:00
II 学生相談 カウンセラー 早坂 浩志			月 金	9:00~17:00 (予約すれば18:00まで可能)
カウンセラー 立原 聖子			月	
カウンセラー 大竹 美貴子	019-621-6073 E-mail : gakusou@iwate-u.ac.jp	学生センターA棟2階 学生相談室ほか	火 木	13:00~17:00 (受付は16:00まで)
カウンセラー 遠藤 麻友美 ※英語による相談可			水 金	
カウンセラー 豊田 洋子				

2) 来所理由別利用状況（令和5年4月～令和6年3月）

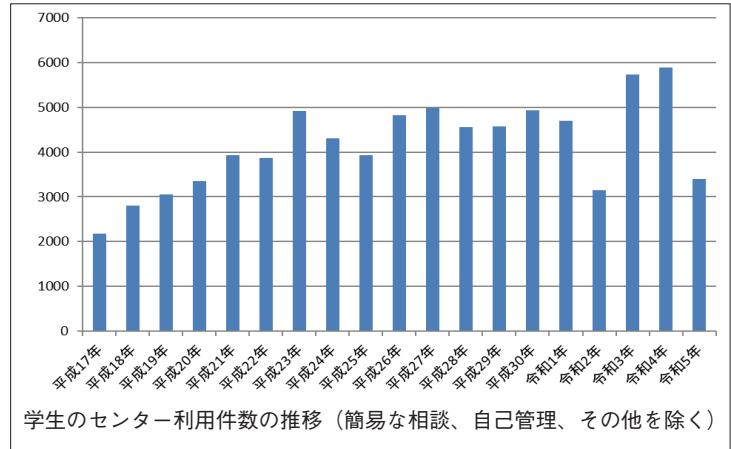
心身ともに健康な学生生活を送れるよう医師・保健師が健康相談を行っている。

科目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	学生	57	49	68	76	17	18	48	39	34	59	20	12	497
	職員	19	9	7	14	8	11	16	10	10	7	22	10	143
外科	学生	12	33	72	45	8	13	25	21	36	18	14	9	306
	職員	0	2	5	2	5	4	3	7	5	5	3	6	47
眼科	学生	1	4	3	2	0	1	11	3	0	2	0	1	28
	職員	0	0	0	0	2	1	4	0	0	0	0	0	7
耳鼻科	学生	3	6	2	2	0	1	3	1	2	1	0	0	21
	職員	0	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	1	6
泌尿器科	学生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
皮膚科	学生	8	20	30	22	5	7	7	7	7	9	2	1	125
	職員	1	4	3	0	3	3	0	0	2	0	2	1	19
婦人科	学生	3	17	15	11	0	3	6	5	5	3	1	2	71
	職員	0	0	2	0	0	1	3	3	5	2	2	1	19
歯科	学生	2	1	1	3	1	2	0	4	3	0	1	1	19
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
精神科	学生	8	22	54	79	22	22	53	55	38	50	14	9	426
	職員	0	0	0	1	0	2	3	7	2	7	2	4	28
相談	学生	179	137	162	182	108	133	195	205	171	195	133	99	1899
	職員	16	8	4	8	2	20	16	14	19	7	14	6	134
禁煙支援	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	学生	273	289	407	423	161	200	348	340	296	337	185	134	3393
	職員	36	24	23	25	20	42	45	41	44	29	46	30	405
自己管理	学生	0	0	0	0	0	34	74	57	58	45	26	44	338
	職員	0	0	0	0	0	4	1	0	7	14	9	13	48
簡易な相談	学生	17	16	23	9	0	2	3	8	2	2	1	10	93
	職員	4	4	6	1	5	5	1	2	1	1	2	3	35
その他の	学生	151	73	92	51	10	5	22	3	2	6	12	9	436
	職員	3	42	2	7	13	44	134	34	14	14	32	12	351
小計	学生	168	89	115	60	10	41	99	68	62	53	39	63	867
	職員	7	46	8	8	18	53	136	36	22	29	43	28	434
計		484	448	553	516	209	336	628	485	424	448	313	255	5099

3) 証明書発行件数

証明書発行	学生	職員
センター発行	289	3
自動発行機発行	623	

自己管理はR5年9月13日から再開



3. 学生相談室活動報告

1) 個別相談状況

令和5年度の学生相談室の相談体制は、元年度から継続して専任カウンセラー2名、非常勤カウンセラー3名の5人体制であった。ただし、4月・5月に専任カウンセラー1名が不在だったので、その期間はふだん午後4時間勤務の非常勤カウンセラーが午前から出勤し、毎日カウンセラー2名で対応できるようにしていた。

令和5年度の実来談者は430名、のべ来談者数（相談回数）は2,223名であった。（4年度445名／2,759名）。実来談数、のべ来談者数ともに昨年より減少した。これは新規相談の多い前期はじめに専任カウンセラーが1名不在だったことが大きいし、コロナ禍の影響もあると考えられる。1人あたりの平均は5.1回の相談であり、1回の平均面接時間は約41.0分であった（専任カウンセラーフレーミングのみ）。

主要な相談統計を表1～9に示す。なお、別紙は相談内容の分類法を示したものであり、全国学生相談研究会議の専任カウンセラーが中心になって作成した「学生相談の共通分類」（下山ら、1991）によっている。相談状況の概要は以下のとおりである。

- 来談経路別でみると、「継続・再来・その他」が全体の1/3、3割程度で推移していたが、令和5年度は37.6%と4割近くを占めていた。発達障害やメンタル不調等の長期にわたる支援が必要な学生が増えていることのあらわれであろう。
- コロナ禍で対面相談が不安な方のため利用できるようにしたメール相談・電話相談は、コロナの収束と相談自体の件数が減っていることもあり、減少した（電話：2年度450→3年度401→4年度322→5年度235、メール：2年度489→3年度482→4年度622→5年度383）。
- 教職員の御自身の問題での実来談者数は24名、のべ来談者数は102名であった。H28年度から増加し始め、40名近い状況が続いていたのがここまで減少したのは、やはりコロナ禍の影響が考えられる。主な相談内容は、精神疾患と人間関係（ハラスメント含）であった。

2) リラクセーション・スペースの利用

簡易ベッド、ボディソニック・チェア、エアロバイク、椅子とテーブルを配置したリラクセーション・スペースは、令和5年度も一般学生には「新型コロナ感染症拡大防止のため利用禁止」とした。

学生相談室に来談した対人恐怖的傾向のある学生や特別支援学生の一時的な休息場所としては利用されている。

3) 心理テストの利用

学生相談室では、就職や進路選択、自己分析の際の一つの資料として利用してもらうために希望する学生に対して心理テストを実施している。行っていたのは「YG性格検査」、「東大式エゴグラム」、「VIP職業興味検査」である。

表1 性別来談者数

性別	来談者数	%
男 性	191	44.4
女 性	238	55.3
不明	1	0.2
合 計	430	100.0

表2 学年別来談者数

学年	来談者数	%
1 年 生	39	9.1
2 年 生	59	13.7
3 年 生	69	16.0
4 年 生*	146	34.0
修士課程学生	62	14.4
博士課程学生	4	0.9
教職員**	24	5.6
その他	21	4.9
不明	6	1.4
合 計	430	100.0

*農学部獣医学科5,6年生・留年生を含む

**教職員の学生の件での相談は含まない

表5 相談形態別のべ来談者数

形態	相談回数	%
面接	1579	71.0
電話	235	10.6
電子メール	383	17.2
その他	26	1.2
合 計	2223	100.0

表7 相談内容別来談者数

相談内容	来談者数	%
心理性格	249	57.9
対人関係*	63	14.7
心身健康	24	5.6
進路修学	76	17.7
学生生活	13	3.0
その他	5	1.2
合 計	430	100.0

*ハラスメント相談を含む

表3 所属別来談者数

所属	来談者数	%
人文社会学部	97	22.6
教育学部	47	10.9
理工学部	138	32.1
農学部	100	23.3
教職員	24	5.6
その他	18	4.2
不明	6	1.4
合 計	430	100.0

表4 来談経路別来談者数

(常勤カウンセラーの対応分)

来談経路	来談者数	%
入学時オリ・健診	26	7.9
ポスター・ウェブ	33	10.0
友人の勧め	12	3.6
センター診療室の勧め	13	3.9
教職員の勧め	25	7.6
家族の勧め	7	2.1
カウンセラーの講義	5	1.5
教職員・家族の来談	65	19.7
継続・再来・その他	124	37.6
不明	20	6.1
合 計	330	100.0

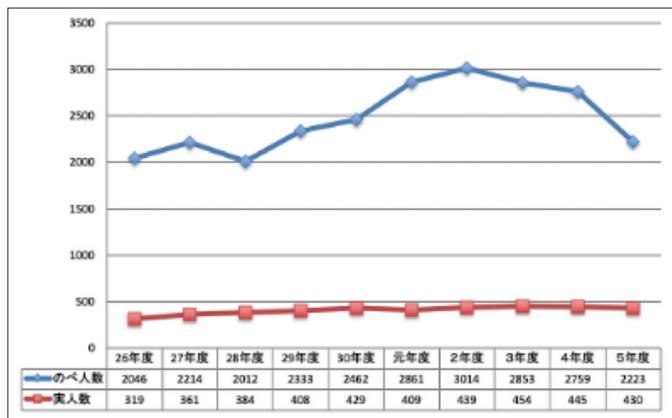
表5 相談対象別のべ来談者数

対象	相談回数	%
学生(本人)	1670	60.5
(教職員)	253	9.2
(家族)	175	6.3
教職員	102	3.7
その他	23	0.8
合 計	2223	80.6

表6 相談内容別のべ来談者数

相談内容	相談回数	%
心理性格	1520	68.4
対人関係	196	8.8
心身健康	273	12.3
進路修学	211	9.5
学生生活	16	0.7
その他	7	0.3
合 計	2223	100.0

*来談者一人あたりの平均面接時間 41.0分



4. 学生定期健康診断

1) 令和5年度（2023）の学生定期健康診断について

5月から新型コロナ感染症の対応が2類から5類（インフルエンザ同様扱い）に変更予定ではあったが、春季の感染者数は依然多いこともあり、昨年同様に感染症予防対策を十分に考慮しての学生定期健康診断の実施となった。

健康診断の実施内容

【学部1年生・編入生・新規留学生】

下表のとおり、4月の授業開始前に2日間実施した。（内科診察、身長体重測定、胸部エックス線検査）。また、必要に応じて再検査（再診察、心電図、貧血検査等）を実施。昨年同様に感染予防の観点から着替までの同時入室人数を制限し、その他の感染予防策を行った。10月入学の新規留学生には、別途（10月2日）実施。

月 日	曜日	受付時間	対 象 学 部	
4月11日	火	AM	9:00~10:00 人文社会科学部	男
			10:00~11:00 農学部	男
		PM	11:00~12:00 理工学部	女
			1:30~2:30 人文社会科学部	女
			2:30~3:30 農学部	女
			3:30~4:30 全学部	男女
4月12日	水	AM	9:00~10:00 理工学部（化学・生命理工学科、物理・材料理工学科）	男
			10:00~11:00 教育学部	男
			11:00~12:00 教育学部	女
		PM	1:30~3:30 理工学部（システム創成工学科）	男
			3:30~4:30 全学部	男女

【学部2年生以上・大学院生等（大学院1年生含む）】

自記式の健康診断票を提出（Web問診導入）することで受診とみなし、健康証明書を発行した。期間は7月末まで延長した。計測はエントランスホールに自動身長体重計2台設置し、自己測定とした。また、医師が問診票の記載内容を全て確認し、必要と判断した場合のみ、来所を指示し内科診察を行った。

●内科呼出等実施数：19名 ／ 電話確認108名

2) 令和5年度(2023) 学年・学部・受診項目別受診者数並びに受診率

			身体計測			内科		
学年	学部・研究科	学生数	対象者数	受診者数(人)	率(%)	対象者数	受診者数(人)	率(%)
1年	人社	214	214	214	100	214	214	100
	教育	177	177	177	100	177	177	100
	工学	440	440	440	100	440	440	100
	農学	240	240	240	100	240	240	100
1年計		1071	1071	1071	100	1071	1071	100
2年	人社	205	205	177	86.3	205	177	86.3
	教育	167	167	157	94	167	157	94
	工学	461	461	349	75.7	461	349	75.7
	農学	247	247	186	75.3	247	186	75.3
2年計		1080	1080	869	80.5	1080	869	80.5
3年	人社	224	224	162	72.3	224	162	72.3
	教育	173	173	157	90.8	173	157	90.8
	工学	459	459	293	63.8	459	293	63.8
	農学	228	228	170	74.6	228	170	74.6
3年計		1084	1084	782	72.1	1084	782	72.1
4年	人社	264	264	196	74.2	264	196	74.2
	教育	176	176	141	80.1	176	141	80.1
	工学	544	544	332	61	544	332	61
	農学	267	267	173	64.8	267	173	64.8
4年計		1251	1251	842	67.3	1251	842	67.3
獣5年	農学	34	34	21	61.8	34	21	61.8
獣6年	農学	34	34	26	76.5	34	26	76.5
獣医5,6年計		68	68	47	69.1	68	47	69.1
院修1年		331	331	254	76.7	331	254	76.7
院修2年		360	360	274	76.1	360	274	76.1
院博1年		28	28	20	71.4	28	20	71.4
院博2年		28	28	8	28.6	28	8	28.6
院博3年		58	58	19	32.8	58	19	32.8
院博4年		4	4	0	0	4	0	0
院計		809	809	575	71.1	809	575	71.1
その他	人社	29	29	21	72.4	29	21	72.4
	教育	14	14	9	64.3	14	9	64.3
	工学	18	18	11	61.1	18	11	61.1
	農学	8	8	5	62.5	8	5	62.5
その他計		69	69	46	66.7	69	46	66.7
国際教育センター・科目等履修生等		11	11	1	9.1	11	1	9.1
総計		5443	5443	4233	77.8	5443	4233	77.8
(昨年度)		5483	5483	3727	68.0	5483	3727	68.0

* 院修は、総合科学研究科・教育学研究科を示す。

* 院博は、工学研究科・理工学研究科・獣医学研究科・連合農学研究科（本学所属学生のみ）を示す。

* その他は学部研究生及び特別聴講生、大学院研究生及び特別聴講生を示す。

3) 胸部エックス線検査

学部	学年	対象者数	受診者数 (率%)	有所見者数 (率%)	精密検査
人文社会科学部	1年	214	214 (100)	0 (—)	—
	2年	1	1 (100)	0 (—)	—
	3年	11	11 (100)	0 (—)	—
	4年	0	—	—	—
	合 計	226	226 (100)	0 (—)	0
教育学部	1年	177	177 (100)	0 (—)	—
	2年	0	—	—	—
	3年	0	—	—	—
	4年	0	—	—	—
	合 計	177	177 (100)	0 (0)	0
理 工 学 部	1年	440	440 (100)	2 (0.5)	1
	2年	0	—	—	—
	3年	13	13 (100)	0 (—)	—
	4年	0	—	—	—
	合 計	453	453 (100)	2 (0.4)	1
農 学 部	1年	240	240 (100)	0 (—)	—
	2年	0	—	—	—
	3年	3	3 (100)	0 (—)	—
	4年	0	—	—	—
	獣4・5・6年	0	—	—	—
	合 計	243	243 (100)	0 (—)	0
留 学 生		14	14 (100)	0 (—)	0
総 計		1,113	1,113 (100)	2 (0.2)	1

○ 学部1年生、編入学生、転入生、入学1年未満の留学生を対象に胸部エックス線検査 (DR撮影) を行った。

『留学生』とは、入学1年未満の大学院生、研究生等を指す。

学部1年、編入の留学生は、学部1年、学部3年の対象とする。

有所見者2名のうち1名が精密検査となった。精密検査の内容は、「結節状陰影の疑い」で医療機関を受診したが「異常なし」だった。

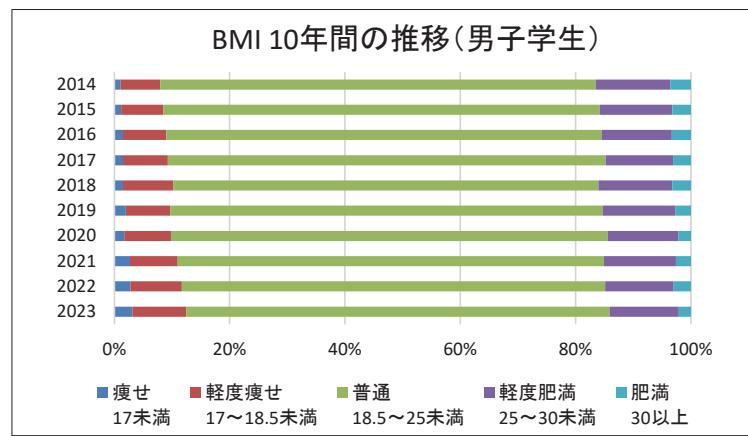
○10月入学の留学生に対し胸部エックス線検査を行った。

留 学 生	対象者数	受診者数 (率%)	有所見者数 (率%)	精密検査
	37	37 (100)	0 (—)	—

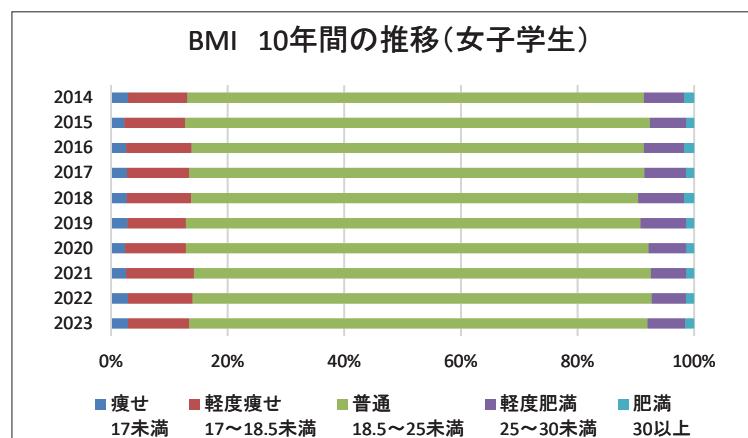
有所見者はいなかった。

4) BMIの推移

年	痩せ 17未満	軽度痩せ 17~18.5未満	普通 18.5~25未満	軽度肥満 25~30未満	肥満 30以上	(%)
2014	1.1	6.9	75.6	12.9	3.6	
2015	1.2	7.3	75.7	12.6	3.2	
2016	1.5	7.5	75.5	12.2	3.3	
2017	1.5	7.8	76.0	11.7	3.1	
2018	1.5	8.7	73.7	12.8	3.2	
2019	2.0	7.7	75.0	12.6	2.7	
2020	1.7	8.1	75.7	12.2	2.2	
2021	2.7	8.3	73.9	12.5	2.6	
2022	2.8	8.9	73.5	11.9	3.0	
2023	3.1	9.4	73.5	12.0	2.1	



年	痩せ 17未満	軽度痩せ 17~18.5未満	普通 18.5~25未満	軽度肥満 25~30未満	肥満 30以上	(%)
2014	2.9	10.2	78.3	6.9	1.7	
2015	2.3	10.4	79.7	6.3	1.3	
2016	2.6	11.2	77.5	6.9	1.7	
2017	2.7	10.7	78.0	7.1	1.4	
2018	2.7	11.0	76.8	7.9	1.7	
2019	2.8	10.0	78.0	7.9	1.3	
2020	2.4	10.4	79.3	6.5	1.3	
2021	2.6	11.6	78.3	6.1	1.3	
2022	2.9	11.1	78.8	5.9	1.4	
2023	2.9	10.5	78.6	6.5	1.5	



5. 職員定期健康診断

1) 日程

検査日	受付時間	対象部局	対象者
4月19日(水)	6:45~8:30	附属幼稚園 附属小学校 附属中学校	全員
7月26日(水) ~8月8日(火)	9:45~10:00 10:00~10:15 13:00~13:15	附属特別支援学校	全員
7月28日(金) ~10月17日(火)	各々	遠方地区(釜石、水沢、北上、花巻、大船渡)	全員
9月4日(月)	8:30~10:00 10:00~11:15	農学部 連合農学研究科 保健管理センター 国際教育センター	男性職員 女性職員
9月5日(火)	8:30~10:45 10:45~11:15	理工学部(男性) 研究支援・产学連携センター	男性職員 女性職員
9月6日(水)	8:30~9:45 9:45~11:15	人文社会科学部 寒冷フィールド(御明神地区) 寒冷フィールド(滝沢地区) 研究地域連携部 地域防災研究センター 次世代アグリイノベーション研究センター 教学マネジメントセンター 評価室 理工学部(女性)	女性職員 男性職員
9月7日(木)	8:30~10:00 10:00~11:15	教育学部 教育学研究科 学務部 ダイバーシティ推進室 監査室 戦略企画室・評価分析室	男性職員 女性職員
9月8日(金)	8:30~10:00 10:00~11:15	法人運営部 技術部(理工・農・情報) 附属校園 ものづくり技術研究センター 教員養成支援センター R I 総合実験センター	男性職員 女性職員

2) 検査項目(男女共通)

(1) 34歳以下及び36歳~39歳の者

身長、体重、視力、血圧、尿(糖、蛋白、潜血)、血液{脂質(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)、貧血(赤血球数、血色素量、MCH)、肝機能(GOT、GPT、γ-GTP)、血糖(HbA1c)、尿酸値)、胸部X線撮影、聴力、腹囲、内科

(2) 35歳の者及び40歳以上の者

(1) の項目に、心電図が加わる。

3) 学内健診・人間ドック等の受診者数

		対象者	受 診 内 訳		受 診 者 数 (率)
			学内健診 受診者数	人間ドック・ 他医療機関 受診者	
上 田 キ ャ ン パ ス 等 事 業 場	役員・法人運営部・監査室・評価室・戦略企画室・評価分析室・ダイバーシティ推進室	136	114	22	136 (100)
	研究地域連携部・研推・地連・研産連セ・情基・R I ・地防セ・ものづくりセ・次世代アグリ	60	43	17	60 (100)
	学務部・教学マ・教養支セ・保管セ・国教セ・入試セ・平泉セ・地社教	90	75	15	90 (100)
	人文社会科学部	72	58	11	69 (95.8)
	教育学部・教育学研究科	86	68	17	85 (98.8)
	理工学部	169	123	45	168 (99.4)
	農学部・連合農学研究科	155	135	20	155 (100)
	技術部 (VI、VII事業場の勤務者を除く)	52	45	7	52 (100)
	釜石地区	9	5	4	9 (100)
附属幼稚園事業場		12	12	0	12 (100)
附属小学校事業場		39	36	3	39 (100)
附属中学校事業場		35	33	2	35 (100)
附属特別支援学校事業場		37	36	1	37 (100)
寒冷フィールドサイエンス教育研究センター(滝沢地区)事業場		13	12	1	13 (100)
寒冷フィールドサイエンス教育研究センター(御明神地区)事業場		13	13	0	13 (100)
合 計		978	808	165	973 (99.5)

4) 尿検査 (人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く)

性 別	受診者数	尿 蛋 白	尿 潜 血	尿 糖
		有所見者数 (率)	有所見者数 (率)	有所見者数 (率)
男	445	7 (1.6)	13 (2.9)	19 (4.3)
女	329	2 (0.6)	27 (8.2)	2 (0.6)
計	774	9 (1.2)	40 (5.2)	21 (2.7)

5) 貧血検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	血 色 素 量	赤 血 球 数	貧 血
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	445	14 (3.1)	5 (1.1)	15 (3.4)
女	360	50 (13.9)	4 (1.1)	51 (14.2)
計	805	64 (8.0)	9 (1.1)	66 (8.2)

6) 肝機能検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	G O T	G P T	γ -GTP	肝機能異常
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	445	62 (13.9)	125 (28.1)	113 (25.4)	90 (20.2)
女	360	15 (4.2)	29 (8.1)	23 (6.4)	19 (5.3)
計	805	77 (9.6)	154 (19.1)	136 (16.9)	109 (13.5)

7) 脂質検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	LDLコレステロール	HDLコレステロール	中 性 脂 肪	脂 質 異 常
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	445	220 (49.4)	19 (4.3)	91 (20.4)	141 (31.7)
女	360	139 (38.6)	3 (0.8)	16 (4.4)	83 (23.1)
計	805	359 (44.6)	22 (2.7)	107 (13.3)	224 (27.8)

8) 血糖検査・胸部X線・血圧（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	血 糖 檢 查		胸 部 X 線 間 接 撮 影		血 圧 測 定	
	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）
男	445	46 (10.3)	446	1 (0.2)	447	82 (18.3)
女	360	6 (1.7)	356	0 (0)	360	30 (8.3)
計	805	52 (6.5)	802	1 (0.1)	807	112 (13.9)

9) 便潜血・胃・心電図（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性別	便潜血検査		胃検査		心電図	
	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）
男	162	9 (5.6)	90	30 (33.3)	377	65 (17.2)
女	107	6 (5.6)	67	19 (28.4)	266	25 (9.4)
計	269	15 (5.6)	157	49 (31.2)	643	90 (14.0)

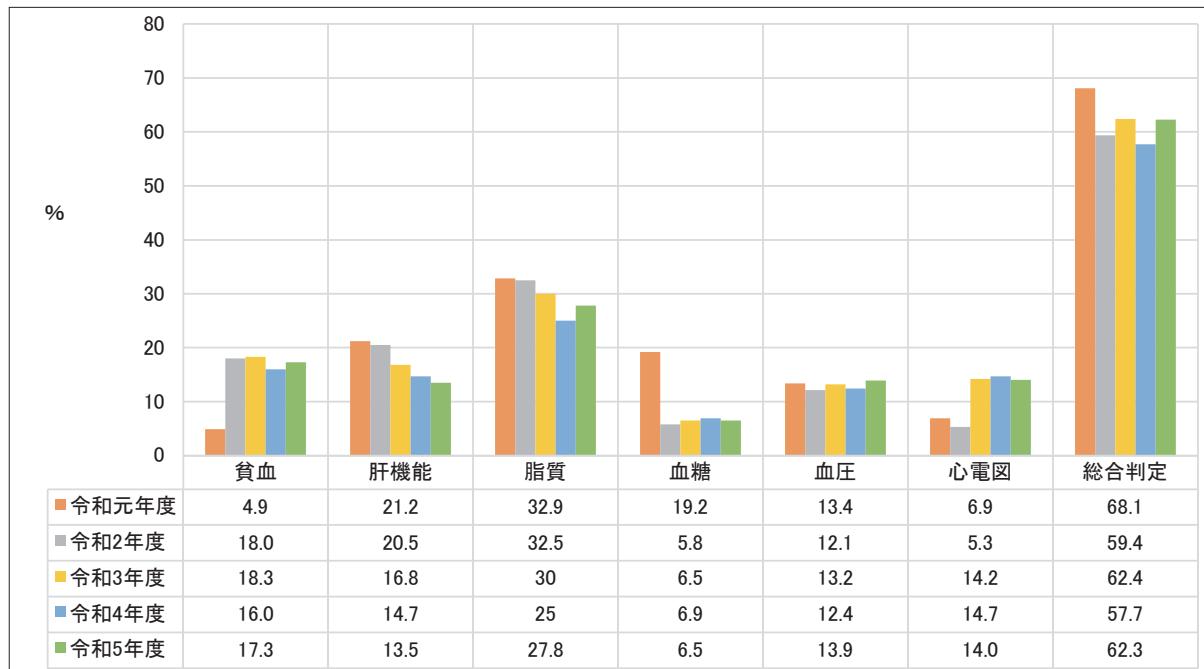
10) 総合判定（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性別	総合判定	
	受診者数	有所見者数（率）
男	447	314 (70.2)
女	361	189 (52.4)
計	808	503 (62.3)

11) 事後指導

性別	対象者数	実施数（率）
男	103	103 (100)
女	92	92 (100)
計	195	195 (100)

12) 検査項目別有所見者率の推移



6. 特殊健康診断等

対 象			実施日	該当者	結 果	受診率(%)	
電離放射線	①RI総合実験センターに従事者登録となる者、 ②動物病院でエックス線業務に従事する者、 ③福島県除染特別地域で研究業務に従事する者	職員(RI、動物病院)	新規	4月14日、 19日、20日	職員4名	全員 異常なし	100
		従事する全職員及び学生	第1回 継続	7月14日	職員58名 学生86名	全員 異常なし	100
		職員(RI) 学生(RI)	新規	7月7日、 25日、26日	職員1名 学生8名	全員 異常なし	100
		職員(動物病院)	新規	8月2日	職員1名	異常なし	100
		職員(RI) 学生(RI)	新規	9月6日、7日	職員1名 学生1名	全員 異常なし	100
		職員(RI) 学生(RI、動物病院)	新規	10月12日、 20日、26日	職員1名 学生35名	34名：異常なし 2名：有所見(管理T)	100
		職員(RI) 学生(RI)	新規	12月5日、14日	職員1名 学生2名	全員 異常なし	100
		従事する全職員及び学生	第2回 継続	1月17日	職員60名 学生126名	全員 異常なし	100
		職員(RI) 学生(RI)	新規	2月19日、29日	職員2名 学生1名	全員 異常なし	100
		職員(RI、動物病院) 学生(RI)	新規	3月1日、18日、 21日、29日	職員3名 学生9名	全員 異常なし	100
有機溶剤 特定化学物質	年間一定量以上の使用(見込み)のある研究室	職員	第1回	7月25日、26日、 8月2日	18名	16名：異常なし 2名：有所見(管理R)	100
		学生			94名	88名：異常なし 4名：有所見(管理R) 1名：有所見(管理T)	100
		職員	第2回	1月16日、17日、 23日、26日	21名	19名：異常なし 2名：有所見(管理R)	100
		学生			98名	88名：異常なし 10名：有所見(管理R)	100
VDT作業	VDT作業従事者	職員	-	11月2日、22日	13名	3名：異常なし 10名：有所見(管理B)	100
振 騒 動 音	チェーンソー等使用による身体に著しい振動を与える業務及び強烈な騒音を発する場所における業務に従事する者	職員	第1回	6月21日	8名	5名：異常なし 1名：有所見(管理B) 2名：有所見(管理R)	100
		職員	第2回	12月12日	8名	4名：異常なし 1名：有所見(管理B) 3名：有所見(管理R)	100

(注) 管理T：有所見の原因は当該業務以外であり、治療が必要

管理R：有所見の原因は当該業務以外にあるが、当該業務に従事することで増悪のおそれがあり、就業制限が必要

管理B：有所見の原因は当該業務にあり、検診または就業制限が必要

7. その他の健康診断

対 象			実施日	該当者	結 果	受診率(%)	
腸内細菌検査	附属学校及び附属施設において調理業務等に従事する者 ※行事等による臨時の従事者には随時検査を実施	職員	-	毎月(附属校園は月2回)	6名	全員 異常なし	100
		職員		10~3月にかけて 毎月1回	6名	全員 異常なし	100
定期健康診断	特定業務従事者	職員	第2回	2月19日、29日 3月1日	51名	19名：D1 17名：D2 15名：D3	100
定期健康診断 (人間ドック・他の医療機関受診者)	-	職員	-	4~3月	165名	74名：D1 56名：D2 23名：D3 12名：結果未提出	-
胃がん検診	40歳以上の希望者	職員	-	4~10月	170名	-	-
大腸がん検診	40歳以上の希望者	職員	-	4~10月	294名	-	-
子宮頸がん検診	20歳以上の女性職員で希望者	職員	-	7~10月	111名	-	-
乳がん検診	40歳以上の女性職員で希望者	職員	-	7~12月	92名	-	-

(注) D1：平常の生活でよいが、医師による直接の医療行為が必要な者

D2：平常の生活でよいが、定期的に医師の観察指導が必要な者

D3：平常の生活でよく、医師による直接又は間接の医療を必要としない者

8. 救護活動

	件名	開催月日	従事者数	救護件数(人)
1	令和5年度入学式	4/7(金)	1	0
2	第66回盛岡・つなぎ間ロードレース大会	5/27(土)	4	1
3	令和6年度理工学部編入学試験	6/16(金)	4	0
4	第74回東北地区大学体育大会（水泳の部）	6/17(土)、18(日)	1	3
5	令和6年度農学部編入学試験	6/23(月)	4	0
6	令和6年度総合科学研究科推薦入学試験	7/3(月)	4	0
7	令和5年度岩手大学オープンキャンパス	8/8(火)	4	3
8	令和5年10月入学及び令和6年4月入学第1期総合科学研究科入学試験	8/21(月)～22(火)	各4	0
9	令和5年10月入学及び令和6年4月入学第1期理工学研究科入学試験 令和5年10月入学及び令和6年4月入学獣医学研究科入学試験	8/23(水)	各4	0
10	令和5年10月入学及び令和6年4月入学第1期連合農学研究科入学試験	8/31(木)	4	0
11	令和6年度第1期教育学研究科入学試験	9/30(土)	2	0
12	令和6年度総合型選抜I（理工）第2次選考	10/6(金)	4	0
13	令和6年度総合型選抜II（理工）第1次選考	10/7(土)	1	0
14	令和6年度人文社会科学部編入学試験	10/10(火)	4	0
15	第74回岩手大学不来方祭	10/21(土) 10/22(日)	1 1	1 0
16	令和6年度学校推薦型選抜	11/21(火)	6	0
17	令和5年度高大連携「ウインターベッショング	12/25(月)、26(火)	各4	0
18	令和6年度総合型選抜II（農学部）	12/27(水)	2	0
19	令和6年度大学入学共通テスト	1/13(土) 1/14(日)	7 7	1 0
20	令和6年度第2期総合科学研究科入学試験 令和6年度第2期教育学研究科入学試験	1/23(火)、24(水) 1/23(火)	各4 各4	0 0
21	令和6年度第2期理工学研究科、第2期獣医学研究科入学試験	1/25(木)	各4	0
22	令和6年度第2期連合農学研究科入学試験	2/1(木)	4	0
23	令和6年度一般選抜・前期日程	2/25(日) 2/26(月)	7 6	3 0
24	令和6年度一般選抜・後期日程	3/12(火)	7	0
25	令和5年度修了式・卒業式	3/22(金)	1	0
	合計			12

■ : 入試関係救護

9. 健康教育・増進活動

1) 健康セミナー

主にグループ単位での健康教育として、心肺蘇生法、応急処置、健康作りのため食事や運動などのセミナーを実施している。

令和5年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンデマンド形式で実施した。

No.	期日	対象	内容
1	2023年4月	化学理工学実験Ⅱ担当教職員ならびにTA	心肺蘇生法、AED設置場所 その他の応急処置（止血法、熱傷処置、RICE処置他）
2	2023年4月	生命コース3年生	心肺蘇生法、AED設置場所 その他の応急処置（止血法、熱傷処置、RICE処置他）
3	2023年9月	化学理工学実験Ⅱ担当教職員ならびにTA	心肺蘇生法、AED設置場所 その他の応急処置（止血法、熱傷処置、RICE処置他）

2) 禁煙支援

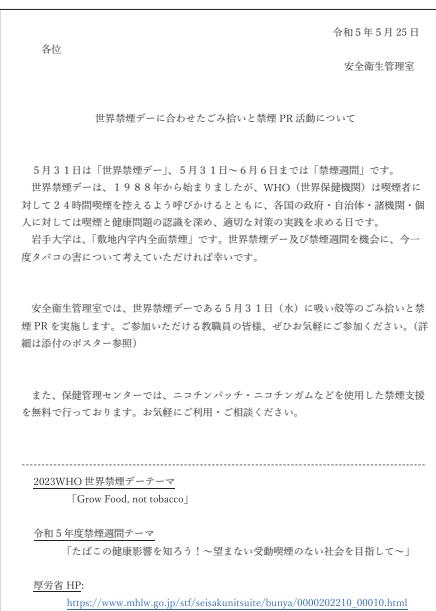
（1）世界禁煙デーのイベント

世界禁煙デーと禁煙週間のイベントとして、ポスター・書籍の展示、ティッシュの配布を行った。また、昨年同様に敷地内禁煙以前の状況や敷地内禁煙までの経緯を知ってもらうために、2004年からの禁煙対策の取組みについて、エントランスホールに大きく掲示をした。

大学周辺の環境整備は安全衛生管理室の企画した「学外通勤・通学路の清掃活動」と合同で、吸い殻拾いや喫煙者へのマナー指導をおこなった。

5/31～ エントランスホールにポスター掲示

5/31～6/6 大学周辺ゴミ拾い・環境整備（安全衛生管理室企画）



(2) 禁煙支援数

2023年度は禁煙支援学生はなし。

3) 性の健康教育活動

6月のHIV検査普及週間、12月1日の世界エイズデーのイベントとして、エントランスホールに、エイズに関するポスターや資料等を掲示し、パンフレット、コンドーム等の配付を行った。

全国的に梅毒が急増していることから盛岡市保健所から提供いただいた資料の掲示を行った。

6月 HIV検査普及週間



12月 世界エイズデー



梅毒について



4) 講義・講演（学内）

1. 講 義

小野田敏行 教養教育科目「健康スポーツA」（分担）
人文社会科学部専門教育科目「健康管理論」
人文社会科学部専門教育科目「関係行政論」
農学部専門教育科目「農学のための倫理」（分担）
農学部専門教育科目「公衆衛生学」

早坂 浩志 教養教育科目「心の理解」
教養教育科目「健康スポーツA」（分担）
大学院総合科学研究科「臨床心理面接特論Ⅰ」
大学院総合科学研究科「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」（分担）
大学院総合科学研究科「人間健康科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」（分担）

立原 聖子 教養教育科目「心の理解」
教養教育科目「健康スポーツA」（分担）

2. 講 演

小野田敏行 4月中 理工学部【化学理工学実験Ⅱ】・生命コース
安全講習会オンデマンド配信
4月4日 新採用者研修
9月中 理工学部【化学理工学実験Ⅱ】安全講習会オンデマンド配信
10月12日 放射線診療従事者の教育訓練
11月20日 衛生管理者受験準備講習会
3月27日 放射線同位元素等の取扱い及び管理に従事する者の教育訓練

早坂 浩志 4月4日 新採用者研修
5月7日 新採用者メンタルヘルス研修
8月4日 教育学部FD研修会

立原 聖子 特になし

10. 他部局との共催及び地域貢献

1) 共催

(1) AED講習会

平成17年3月にAED（自動体外式除細動器）を上田地区3台、附属小学校・中学校・特別支援学校に各1台設置したことにより、17年度から教職員対象にAED講習会を実施している。この講習は、盛岡中央消防署上田出張所の協力により実施し、修了者には普通救命講習Ⅰ修了証が交付されている。尚、この事業は安全衛生管理室との共催実施となっている。現在、延べ406名修了している。

（※現在のAED設置数18台：上田地区11台（放送大学、がんちゃん保育園も含む）、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、特別支援学校、滝沢農場、滝沢演習林、御明神総合施設各1台）

No.	期日	時間	受講人数	会場
1	2023年9月15日(金)	10:00～12:00	17	岩手大学事務局3階 第二会議室
計			17	

(2) FD・SD研修会

令和5年度学生支援を考える教員FD研修会（学生特別支援室と共催）

日程：令和6年3月19日(火)～3月31日(日)

方法：YouTubeでのオンデマンド配信

内容：①(独法)日本学生支援機構「令和5年度障害者差別解消法に関する理解・啓発セミナー（基礎編）」の視聴

②講義「岩手大学における障害学生支援の現状と課題」

2) 地域貢献

(1) 実習の受け入れ

実習生所属先	実習生人数	実習期日	実習内容
岩手大学 総合科学研究科	6	令和5年7月31日(月) 令和5年8月7日(月)	心理実践実習
岩手大学 人文社会科学部	12	令和5年7月6日(木) 令和5年8月7日(月) 令和5年8月23日(水)	心理実習
岩手医科大学医学部	6	令和5年5月～7月	公衆衛生学実習
計	24		

(2) 学外委員会所属状況

- 小野田敏行：盛岡市保健所運営協議会委員、盛岡市介護保険運営協議会委員、盛岡市地域包括支援センター運営協議会委員、盛岡市地域密着型サービス運営委員会、零石町環境審議会委員、岩手県公害審査委員候補者、岩手県准看護師試験委員、独立行政法人労働者健康安全機構岩手産業保健総合支援センター相談員、岩手県地域脳卒中登録運営委員、岩手県がん登録運営委員、岩手県地域心疾患登録運営委員、岩手医科大学客員教授、岩手公衆衛生学会理事、岩手県廃棄物処理施設等設置等専門委員会委員、放送大学客員教授、全国大学保健管理協会評議員
- 早坂 浩志：岩手県いじめ再調査委員、社会福祉法人盛岡いのちの電話研修委員
- 立原 聖子：盛岡少年鑑別支所外部アドバイザー、社会福祉法人盛岡いのちの電話研修委員
- 長沼 敦子：全国大学保健管理協会評議員、全国大学保健管理協会保健看護委員会委員、滝沢・零石介護認定審査会委員、矢巾町地域福祉推進審議会委員
- 茅平 鈴子：全国大学保健管理協会東北地方部会保健・看護委員会委員

III 令和5年度(2023) 保健管理センターの現況

1. 保健管理センター運営委員会
2. 学内委員会所属状況
3. 学会・研修会等出席状況
4. 保健管理センター職員名簿

1. 保健管理センター運営委員会 令和5年度 (2023)

1) 委員会名簿

区分	氏名	所属部局等
委員長	小野田 敏行	保健管理センター長
委員	早坂 浩志	保健管理センター専任教員
〃	立原 聖子	保健管理センター専任教員
〃	浅沼 道成	人文社会科学部
〃	澤村 省逸	教育学部
〃	平塚 貞人	理工学部
〃	立澤 文見	農学部
〃	川崎 宏	学務部長

2) 開催記録

第1回 保健管理センター運営委員会

開催日時：令和5年6月19日(月) 10:58～11:45

開催場所：学生センターA棟会議室

議題：1. 副委員長の選出について

2. 2022 (R4) 年度決算及び2023 (R5) 年度予算配分について
3. その他

報告：1. 2022 (R4) 年度健康相談利用状況について

2. 2022 (R4) 年度学生相談利用状況について
3. その他

第2回 保健管理センター運営委員会

開催日時：令和6年2月27日(火) 11:00～11:25

開催場所：学生センターA棟会議室

議題：1. 営利兼業審査について

2. 2024 (R6) 年度学生定期健康診断日程及び検査項目（案）について
3. 2024 (R6) 年度学生特殊健康診断日程（案）について
4. その他

報告：1. 2023 (R5) 年度学生定期健康診断受診状況について

2. 2023 (R5) 年度学生特殊健康診断の実施状況について
3. その他

2. 学内委員会所属状況

- 小野田敏行：保健管理センター運営委員会、学生特別支援室運営会議、安全衛生委員会、放射線安全委員会、遺伝子組換え生物等安全委員会、バイオセーフティ委員会、毒物等管理委員会、動物実験委員会、人を対象とする研究倫理審査委員会、人を対象とする研究倫理審査委員会迅速審査
- 早坂 浩志：保健管理センター運営委員会、ハラスメント防止委員会委員および相談員、学生特別支援室運営会議(学生特別支援室室長兼務)、学生支援委員会、人文社会科学部附属こころの相談センター運営委員会
- 立原 聖子：保健管理センター運営委員会、ハラスメント防止委員会相談員、学生特別支援室運営会議、ダイバーシティ推進室企画会議
- 長沼 敦子：学生特別支援室運営会議

3. 学会・研修会等出席状況

令和5年度（2023）研修関係開催日順

No	開催月日	件 名	出席者	会 場
1	5/13(土) ～14(日)	日本学生相談学会第41回大会	早坂 浩志	全国町村会館（東京都） 昭和女子大学当番校
2	5/20(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市） Web開催
3	7/1(土)	令和5年度盛岡地区保健師会研修会	茅平 鈴子	盛岡市都南文化会館
4	7/8(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市） Web開催
5	7/13(木)	キャリアカウンセラー勉強会	立原 聖子	岩手大学学生センターB棟1F多目的室
6	7/21(金)	第60回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会	小野田敏行 長沼 敦子 茅平 鈴子 阿部 智子	東北大学当番校 Web開催
7	9/1(金)	全学FD・SD研修会	立原 聖子	北桐ホール
8	9/9(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市） Web開催
9	10/4(水) ～5(木)	第61回全国大学保健管理研究集会	小野田敏行 長沼 敦子 茅平 鈴子	石川県立音楽堂 金沢大学当番校 ハイブリッド開催
10	10/18(水)	マイナビ「障害者就職支援セミナー」	立原 聖子	マイナビWeb開催
11	11/11(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市） Web開催
12	11/22(水)	令和5年度東北地区国立大学法人等安全管理協議会	小野田敏行 長沼 敦子 茅平 鈴子 阿部 智子	福島大学当番校 Web開催
13	1月	令和5年度大学における自殺対策推進のための研修	長沼 敦子	一般社団法人いのち支える自殺対策推進センター Web開催
14	1/18(木)	キャリアカウンセラー勉強会	立原 聖子	岩手大学図書館2F生涯学習・多目的学習室
15	1/20(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市） Web開催
16	2/29(木)	全学FD・SD研修会	早坂 浩志 立原 聖子	北桐ホール ハイブリッド開催
17	3/9(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市） Web開催
18	3/14(木) ～15(金)	第25回フィジカルヘルス・フォーラム	小野田敏行 立原 聖子 長沼 敦子 阿部 智子	札幌市立大学桑園キャンパス 札幌市立大学（当番大学）
19	3/23(土)	第35回岩手公衆衛生学会学術集会	小野田敏行	岩手県公会堂 ハイブリッド開催

*氏名欄の○印：発表者

4. 保健管理センター職員名簿 令和5年度 (2023)

職名	所属部局等	備考
センター長・教授	小野田 敏行	産業医
准教授	早坂 浩志	カウンセラー
准教授	立原 聖子	カウンセラー
保健師	長沼 敦子	
保健師	茅平 鈴子	
保健師	阿部 智子	
安全衛生管理室	木下 智陽	衛生管理者 R2.4.1～R6.3.31
カウンセラー(非)	豊田 洋子	H23.10～
カウンセラー(非)	大竹 美貴子	H28.4～
カウンセラー(非)	遠藤 麻友美	H31.4～

第 52 号

目 次

I 研究報告

- 大学保健管理施設を居場所として利用する学生の特徴と看護スタッフに求められるスキル
早坂浩志、阿部智子、長沼敦子、茅平鈴子、立原聖子、小野田敏行 37

II 寄稿

- センターで過ごした21年間を振り返って
保健師 長沼 敦子 43
ご挨拶 保健師 上家 いよ 44

III 令和6年度(2024)業務報告

1. 保健管理センターこの一年 45
2. 健康相談 47
3. 学生相談室活動報告 49
4. 学生定期健康診断 50
5. 職員定期健康診断 54
6. 特殊健康診断等 58
7. その他の健康診断 58
8. 救護活動 59
9. 健康教育・増進活動 60
 - 1) 健康セミナー 60
 - 2) 禁煙支援 60
 - 3) 性の健康教育 61
 - 4) 講義・講演 62
10. 他部局との共催及び地域貢献 63
 - 1) 共催 63
 - (1) AED講習会 63
 - (2) FD・SD研修会 63
 - 2) 地域貢献 63
 - (1) 実習生の受け入れ 63
 - (2) 学外委員会所属状況 64

IV 令和6年度(2024)保健管理センターの現況

1. 保健管理センター運営委員会 65
 - 1) 委員会名簿 65
 - 2) 開催記録 65
 - 3) 保健管理センター関連規則改正内容 65
2. 学内委員会所属状況 68
3. 学会・研修会等出席状況 69
4. 保健管理センター職員名簿 70

►本誌の数表の記号

その事象が出現する可能性をもっているが、 統計上出現しない場合	-
その事象が出現することは、本質的にありえない場合
上記以外の統計数がない場合又は統計数を表 章することが不適当な場合（分母が10未満）

I 研究報告

大学保健管理施設を居場所として利用する学生の特徴と 看護スタッフに求められるスキル

早坂浩志・阿部智子・長沼敦子・茅平鈴子・立原聖子・小野田敏行
(岩手大学保健管理センター)

1. はじめに

「居場所」とは本来は「いるところ、いどころ」という物理的空間を指すが、心理的な安心感や自己肯定感がもてる場所、所属意識をもつ集団など、多くの意味で使われる言葉である。とくに初等・中等教育においては、1980年代に不登校が急増したことにより児童生徒の心の居場所づくりの必要性が指摘されるようになり、文部省（1992）において、保健室も学校内の居場所の一つとして機能しうることが示された。中学生を対象にした調査研究において、杉本・庄司（2007）は保健室をよく利用する生徒は保健室を心理的居場所として感じている傾向があることを見出し、今吉ら（2010）は保健室に心理的居場所感を感じている生徒は学校適応に何らかの問題を抱えている傾向があるとの結果を得ている。

高等教育である大学においても、学生支援の一環として学生相談施設が居場所を提供する取組がなされている。（独）日本学生支援機構による全国の大学・短大・高専を対象にした調査によると、32.7%の大学で談話室や懇談室等の名称で居場所を設けていた（日本学生支援機構, 2025）。鈴木（2020）は大学における居場所の機能として「学生がありのままの自分でいられる場」、「人とコミュニケーションできる場」、「多層的支援のつなぎの場」の3つを挙げ、多様な問題を抱える学生の大学への適応と成長に意味をもつと述べている。近年、本学保健管理センター（以下センターと略す）においても、センターを居場所として頻繁に利用する、大学になんらかの不適応感を感じている学生が一定数見出されるようになっている。初等・中等教育の保健室と共通するところが多い大学保健管理施設の居場所機能について検討した研究はこれまでないため、センターを居場所利用する学生の特徴やニーズ、対応する看護スタッフに求められるスキルを整理し、大学保健管理施設が居場所機能をもつための要件について考察することを目的とする。

2. 居場所利用する学生の特徴の分析

(1) 目的

センターを居場所として利用する学生数の状況や利用目的等の特徴を明らかにする。

(2) 方法

本分析では「保健師と話したりセンターで過ごすことを目的で複数回利用している学生」を居場所利用学生として定義し、2024年4月から5月の2ヶ月の間の居場所利用学生を分析の対象とした。データはセンターの健康相談の電子カルテ上の氏名、性別、所属、学年、相談日時、相談内容・症状（自由記述）、相談履歴（新規・再来）、相談時間（分）、担当保健師名（3名）、対応・処置（自由記述）を使用して居場所利用学生を抽出した。

(3) 結果

2ヶ月の間に22名の居場所利用学生があり、女性が16名（73%）、男性が6名（27%）で女性の利用が多かった。4月以降に新規に来所した学生は5名（23%）で、17名（77%）が昨年度からの継続学生であり、長期的に利用する学生が多くを占めていた。センターだけではなく他の学生支援窓口であるカウンセリング、障害学生支援を利用している学生の内訳は図1に示すとおりであり、センターと並行してカウンセリングや障害学生支援を利用している学生が16名（73%）だったが、センターだけに通っている学生も6名（27%）みられた。

22名の学生がのべ259回センターを訪れていて、これはこの期間の全健康相談件数の23.6%を占めていた。一人の来所回数は2回から89回（Mdn=7.5回）と学生によって幅が大きく、学生が休憩していた時間を除いた保健師対応時間はのべ6815分で、一人ののべ対応時間も10分から26時間（Mdn=167.5分）と学生によって

幅があった。図2に示したとおり学生の利用内容は、人間関係や性格や勉強等の「相談」、雑談等の「近況報告」、ベッドでの「横になっての休憩」、「座っての休憩・昼食」、勉強の場として利用する「勉強」の順で多く、休息・休憩よりも保健師と話すことを目的とする学生が多かった。

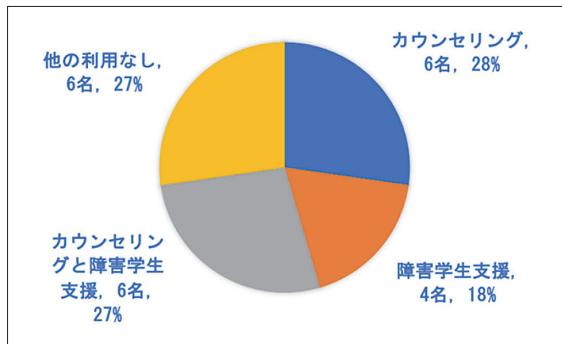


図1 他の学生支援の利用

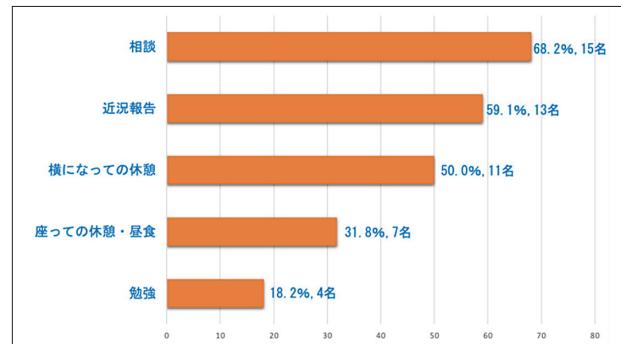


図2 利用の内容

3. 居場所利用学生対応での問題点や留意点の整理

(1) 目的

居場所利用学生に対応する保健師が感じている問題点や対応の際に留意していることについて意見収集を行い整理する。

(2) 方法

Miro.com社の仮想ホワイトボードサービス「Miro」（無料版）を利用して「居場所利用学生に関する問題・悩み」と「対応の際の工夫・心がけていること」の2つのボードを設定して、それぞれにセンターの3名の保健師A、B、Cが自由に意見を書き込み、それをカウンセラーが保健師に確認しながら分類を行った。

(3) 結果

「居場所利用学生に関する問題・悩み」は、「場所・空間の制限」、「学生の多様性」、「曖昧な枠組み」、「他業務への支障」の4つに分類した（図3）。「場所・空間の制限」は、手狭のところに昼休みなど学生が集中すると話を聞く場所がなく、学生にとっても保健師にとってもストレスになるという問題である。「学生の多様性」は、話を聞いてほしい学生もいれば、答えを求める学生、自分の気持ちや考えを言えない学生もいて、さらに同じ学生でもその時々でニーズが異なるので保健師は即座に学生の特徴を理解したり、その時の学生のニーズを把握するのに苦労するという悩みである。「曖昧な枠組み」は時間と場所の枠を決めて話を聞くカウンセリングとは異なり、センターには原則として学生は来たい時に気軽に来られるため、長時間になつたり昼休みに集中するなど時間のコントロールで困難を感じるという悩みである。「他業務への支障」は文字通り、居場所利用学生の対応に時間をとられて他の業務ができない問題である。

次に「対応の際の工夫・心がけていること」は、「時間を区切る」、「関係作り」、「学生に合わせる」、「伝え方の工夫」、「修学・健康状態の確認」、「距離を保つ」、「連携と分担」の7つに分類した（図4）。「時間を区切る」は、初めに話せる時間を示す、忙しい時は断るなどして対応時間をコントロールするための工夫である。「関係作り」は、こちらから声掛けをしたり笑顔で接するなどの学生との信頼関係をつくるための工夫、「学生に合わせる」は、学生のペースに合わせる、否定しないなどの学生が話しやすくするためのコミュニケーションの工夫である。一方「伝え方の工夫」は、曖昧な表現を避ける、文字に書いて示すといった、意見や助言を学生に伝わりやすくするためのコミュニケーションの工夫である。「修学・健康状態の確認」は、授業の出席、体調などの社会的適応や身体の健康状況への留意であり、「距離を保つ」は、感情移入しすぎないようにする、無理はしないようにするなど保健師と学生という関係の範囲で対応するように留意することであり、そのこととも関連するが「連携と分担」は、保健師が一人で抱え込まずに必要に応じてカウンセラーや障害学生支援コーディネーター等の他の学生支援部署と情報共有して連携して対応することである。



図3 居場所利用学生に関する問題・悩み

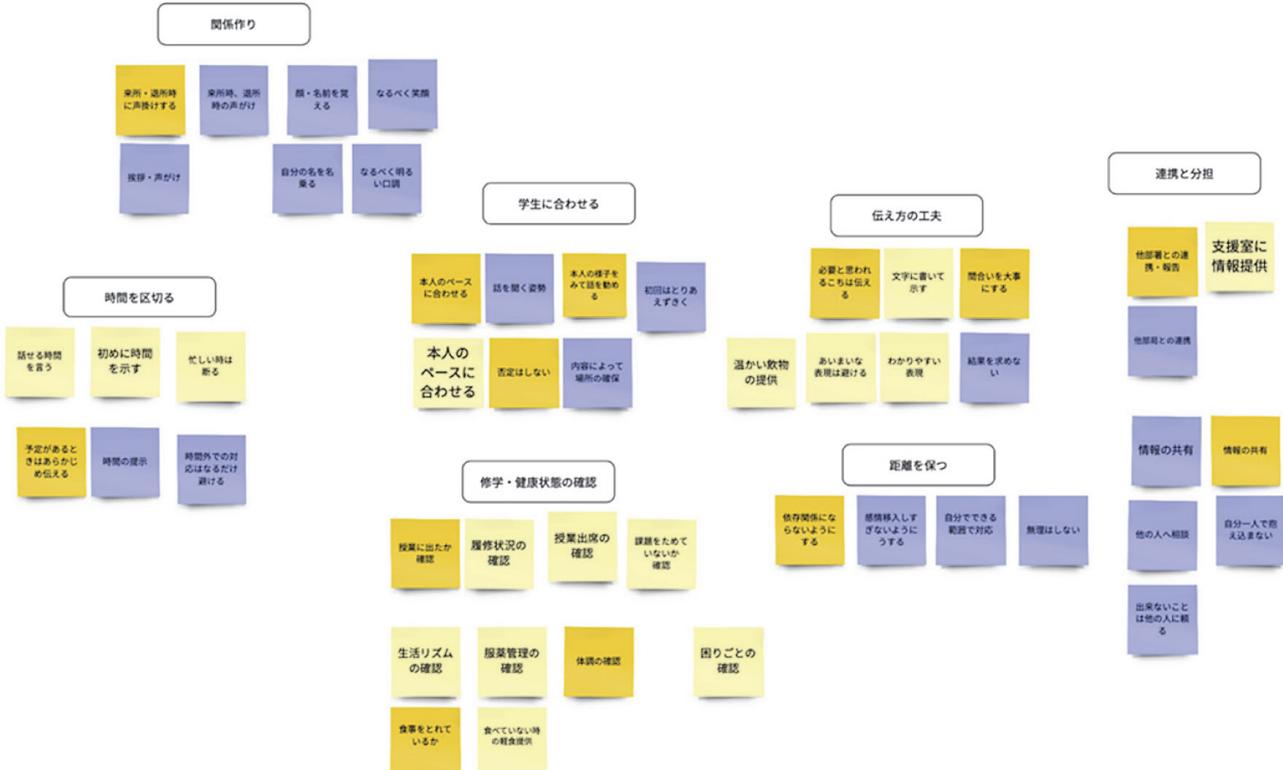


図4 対応の際の工夫・心がけていること

4. 考察

(1) 居場所利用する学生の特徴とニーズ

2ヶ月間にセンターを居場所利用した学生の分析から、居場所としてのセンターは「誰かと話したいが話せる人がいない、あるいは友人や家族には話したくない学生」、「カウンセリングや障害学生支援が合わない、あるいはそれだけでは不十分な学生」、そして「学内で他の学生から離れて一息つける場を求める学生」の3つのニーズに応えていると考えられる。学生は人間関係や性格や勉強等の相談や、「最近こんなことがあった」といった近況報告を目的に訪れることがもっとも多かったが、話せる友人がいない場合もいれば、友人や家族との関わりはあるものの、そこでは話しづらい内面の考え方や気持ちを話したい場合もある。いずれにしても自分の悩みや自分の気持ちを話せる場としてセンターは機能していると考えられる。

もちろんセンターのカウンセラーや障害学生支援コーディネーターにも自分の悩みや気持ちを話すことは可能である。実際、それらの学生支援のいずれかまたは両方を利用している学生が7割以上を占めていた。しかしカウンセリングは原則として予約制で時間と場所の枠を設け、「○○について相談したい」、「○○で困っている」という主訴の自覚を前提しているため、主訴は明確ではないがなんなく話をしたい学生、時間と場所の枠を守るのが苦手な学生にとってはカウンセリングが合わなかつたりそれだけでは不十分に感じるのではないだろうか。また、障害学生支援コーディネーターに相談するには心身の障害があることが前提となるため、すべての学生が利用できるわけではない。

そして学内での心の休息、休養の場所を求めている学生のニーズにセンターは応えている。青年期は自分が他人にどう映っているかに关心が向く時期であり、中学や高校の頃から学校という他人の目にさらされ続ける環境が苦手だったり、なんらかの理由で対人苦手意識が強い学生には大学はストレスフルな場になる。それでも将来のために登校を続ける学生にとっては学内であってもセンターという限られた空間で一人になれることは心の休息、休養となるだろう。

石本（2010）は居場所を1人でいる居場所である個人的居場所と他者といる居場所である社会的居場所に分類しているが、これらのことからセンターはこの2つの機能を両方有していて、保健師と話したい学生にとっては社会的居場所になるし、人から離れて休みたい学生には個人的居場所になっていると考えられる。

(2) 保健師のスキル

そうした学生のニーズに応え居場所機能を維持するにあたって、対応する保健師は「場所・空間の制限」、「学生の多様性」、「曖昧な枠組み」、「他業務への支障」といった困難に直面することが明らかになった。学生がいつ来てもよく何をしていてもよいという自由さは居場所としては長所であるが、保健師からすると場のコントロールが難しくなるためストレスになる。しかし、保健師はそのストレスや困難を低減するために、「時間を区切る」、「関係作り」、「学生に合わせる」、「伝え方の工夫」、「修学・健康状態の確認」、「距離を保つ」、「連携と分担」の7つの工夫や心がけを行っていることも明らかになった。これをさらにまとめると、「時間を区切る」は場のコントロールのスキル、「関係作り」、「学生に合わせる」、「伝え方の工夫」はコミュニケーションのスキル、「修学・健康状態の確認」はアセスメントのスキル、「距離を保つ」、「連携と分担」は学生と自身を守るためのスキルととらえることができる。つまり場をコントロールすることで限られた時間と空間の中でできるだけ多くの学生と関わり、コミュニケーションのスキルにより学生に被受容感や精神的安定を促し、アセスメントスキルにより修学や健康状態の悪化を見逃さないようにし、そして学生と自身を守るスキルにより、学生の援助と自身の業務遂行の両立を図っている。保健師はこうしたスキルを身につけ、それを駆使してセンターの居場所機能を維持しているわけである。

(3) 大学保健管理施設が居場所機能をもつための要件

少子化による大学全入時代を迎えて久しく、学力のみならず社会的にも心理的にも様々な背景をもつ学生が入学するようになり、障害学生への合理的配慮や性・性別の多様性の尊重等、多様な学生の支援を大学は求められてきている。そうした学生支援の一環として、初等・中等教育における保健室と同じように学生の心の居場所として大学保健管理施設を機能させることも考えられ、本研究では大学保健管理施設に対する学生の居場所ニーズがあることを示した。前述したように、学生相談施設が居場所づくりに取り組んでいる大学はすでにあるが、高校までの保健室からの延長線上にあるため学生が利用しやすいことや看護スタッフが

常駐している点で保健管理施設は居場所としての利点も多い。しかし保健管理施設が居場所として機能できるにはいくつかの要件があることも本研究で明らかになった。

まず、看護スタッフとスペースの余裕である。看護スタッフの主たる業務は心身の健康に関する相談・処置であり、スタッフと話したり施設で過ごすことを目的で訪れる居場所利用学生への対応は主業務ではない。つまり健康相談や処置を行いながら居場所利用学生への対応も行うこともあり得るわけであり、それには複数の看護スタッフの存在とそれだけのスペースがあることが必須である。複数スタッフの存在は、単に同時に並行で業務が行えるだけではなく、対応に苦慮する居場所利用学生について互いに相談することでスタッフの孤立を防げるという点でも重要であり、つまり保健管理施設が居場所として機能するには「一人職場」ではないことが最低条件となるだろう。

そして本研究で示したように、看護スタッフには独自の対応スキルが必要になる。こうしたスキルは経験をとおして習得していくところが大きいが、スタッフの適性や志向に左右されるところもある。とくにそれが主業務ではない場合は、居場所利用学生への対応を求めることが看護スタッフの過度なストレスにならないように施設の管理者は配慮する必要がある。とくにスタッフのストレスマネジメントという点でも連携と分担は重要である。学生支援の他施設、例えば学務部や学生相談施設や障害学生支援施設等と日常からコミュニケーションをとれる関係ができていて、居場所利用学生のことを相談したり、連携して対応する体制がこれで重要な要件となる。このように大学保健管理施設が居場所として機能するにはいくつかの要件があるわけだが、要件を満たしていなくても学生の方が高校までの保健室の感覚で居場所として利用している大学も現状多いのではないだろうか。とくに一人職場の場合、看護スタッフが一人で抱えこんでしまうことがないように早めに施設の管理者や他の学生支援施設に相談できる体制だけでも整備する必要があるだろう。

*本研究は、第62回全国大学保健管理研究集会（2024年10月16日、神戸）での発表に新たな考察を加えて論文化したものである。

引用文献

- (独)日本学生支援機構. 大学等における学生支援の取組状況に関する調査（令和5年度（2023年度））. 2025-01. https://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_torikumi/2023.html (参照2025-05-20).
- 今吉このみ, 長江美沙, 五十嵐哲也. 中学校における教室と保健室の「居場所」としての心理的機能の比較—学校享受感の視点から—. 愛知教育大学保健環境センター紀要2010;9:45-52.
- 石本雄馬. こころの居場所としての個人的居場所と社会的居場所—精神的健康および本来感, 自己有用感との関連から—. カウンセリング研究2010;43(1):72-78.
- 文部省. 登校拒否（不登校）問題について—児童生徒の「心の居場所」づくりを目指して（学校不適応対策調査研究協力者会議報告）—. 教育委員会会報1992;44:25-29.
- 杉本希映, 庄司一子. 中学校の教室・保健室・相談室における「居場所」の心理的機能の検討. 筑波教育学研究2007;5:37-52.
- 鈴木佳子. 居場所の提供. In : 学生相談ハンドブック新訂版. 日本学生相談学会編. 学苑社; 東京 : 2020. p.170-172.

II 寄 稿

センターで過ごした21年間を振り返って

保健師 長 沼 敦 子

思い起こせば平成16年（2004年）4月、大学の法人化開始の年に赴任しました。それまでは市町村の保健師12年、短大の教員6年務め、岩手大学には21年間お世話になりました。赴任早々の4月は、学生の定期健康診断で一番忙しい月でもあり初日から健診準備の残業で、大学という学生対象の規模の大きい健診に驚いたことを思い出します。様々な業務の中で、学生から正しい情報をいかに引き出すか、言葉かけや医学用語の説明1つとっても意識しながら接する中で、「今の学生を知る」ということがとても大切だと感じました。自分自身の価値観が必ずしも学生にとって重要なこと・求めていることではなく、信頼関係を築きながら相手のニーズに応えつつ、学生が大学生活を有意義で楽しかったと思える経験ができるように、また卒業後は社会に適応していくようにと願いながら対応していました。それから、法人化に伴い財政的にも厳しくなるという事で、東北地方看護部会での幹事仲間の助言から科研費を申請し、研究活動費をゲットし自由な発想で様々な取り組ませていただきました。また立身センター長のもと、全国規模の学会（日本禁煙科学会、日本農村医学会、全国大学保健管理研究集会など）開催があり企画実施運営に勤しました。かなり大変ではありましたが様々な業種の方々と協力しながらイメージ通りの学会運営ができたことに満足しています。

そして、小野田センター長のもと2019年～2023年までの新型コロナ対策は、私の大学保健管理業務上一番過酷なものでした。新型コロナは得体が知れず、岩手での発症後いかに大学での集団感染を防止するか、公衆衛生の原点に立ちながら本部や学務部とともに必死で取り組みました。

在職中は、本当に多くの方々に支えられ、学び、笑い、時には苦労も共にしながら過ごした日々は、私にとってかけがえのない宝物です。ひとえに皆様のご支援があってこそ、今日まで充実した日々を過ごすことができました。今後は、皆さまとのご縁に感謝しながら、これまでの経験を活かし、新たな道を歩んでまいります。

皆さまの益々のご発展とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

ご挨拶

保健師 上家いよ

令和7年1月1日に岩手大学保健管理センターに着任いたしました、上家（かみいえ）と申します。私は、岩手県立大学看護学部卒業後に看護師として3年間一般病院に勤め、その後本学の安全衛生管理室に非常勤保健師として勤務いたしました。安全衛生管理室は主に教職員のための職場の安全管理、衛生管理を担当する部署であり、定期健康診断、特殊健康診断、職場巡視、安全衛生委員会、ストレスチェックの実施など多岐にわたる産業保健の経験を積ませていただきました。また、結婚、出産、子育てという、目まぐるしいライフステージの変化と仕事の両立も温かく見守り支えていただきました。

退職後は、大学での経験を活かし一般病院に約7年間保健師として勤務いたしました。そこでは健康診断や人間ドックに来院された方への検査説明、保健指導などのほか、産業保健師として提携企業へ定期訪問し、安全衛生委員会へ出席したり労働者向けの健康講話を行ったりしました。コロナ禍ではワクチン接種事業の主な担当となり、接種体制の整備に尽力しました。当時はその職場で初めての保健師採用で、岩手大学の安全衛生管理室での経験が業務の構築に大変役立ちました。

そして今年1月より再び本学にご縁をいただき、今度は保健管理センターで、主に学生を対象とした業務に携わることとなりました。今まで対応してきた成人期～老年期の方とは違い、疾病やケガといった身体的な健康だけでなく、友人や教員との関係、単位取得に関する悩み、親との関わり方など、自立途中有る大学生ならではの課題があり、難しさと同時に、未来ある若者との関わりにこれまでにないやりがいを感じています。まだまだ経験不足、知識不足で至らぬことばかりですが、保健管理センターを必要としてくれている学生の声に耳を傾けながら、安心して相談できる存在になれるよう努めてまいります。

いつも温かく支えてくださるセンター長はじめ、カウンセラーの先生方、先輩保健師の皆様に感謝しつつ、大学のチームの一員としてより良い学生の支援体制づくりに貢献できるよう精進していきたいと思います。

今後ともご指導のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。

III 令和6年度(2024)業務報告

1. 保健管理センターこの一年
2. 健康相談
3. 学生相談室活動報告
4. 学生定期健康診断
5. 職員定期健康診断
6. 特殊健康診断等
7. その他の健康診断
8. 救護活動
9. 健康教育・増進活動
10. 他部局との共催及び地域貢献

1. 保健管理センター

令和6年度 (2024)

この一年

4月

- ・5日 入学式救護
- ・9・10日 新入生学生定期健康診断
- ・11・12日 新入生学生定期健康診断再検査
- ・11・16日 電離放射線特殊健康診断（新規）
- ・22日 雇入れ時健康診断／新入生学生定期健康診断未受診者胸部X線検査
- ・23日 理工学部安全訓練（化学理工学実験Ⅱ担当教職員ならびにTA）
- ・24日 職員定期健康診断（加賀野地区）

5月

- ・9日 職員定期健康診断尿再検査
- ・9・23日 岩手医科大学生公衆衛生学実習
- ・18日 ロードレース大会救護
- ・22日 職員定期健康診断結果配布（加賀野地区）
- ・22・27日 蜂抗体検査（職員・森林学科）
- ・5／31～6／6 世界禁煙デー＆エイズ検査普及週間イベント開催

6月

- ・3日 第1回保健管理センター運営委員会
- ・13日 電離放射線特殊健康診断（新規）
- ・17日 全国大学保健管理協会総会・理事会（Web開催）
- ・27日 振動騒音特殊健康診断

7月

- ・2日 医療講習会 ハチ刺され対応について（財務課職員等対象）
- ・8・9日 岩手医科大学生公衆衛生学実習
- ・11・12日 第61回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会（岩手大学当番校）
- ・23日 電離放射線特殊健康診断（新規）
- ・23・24日 有機溶剤・特定化学物質特殊健康診断（第1回）
- ・29日 総合科学研究科心理実践実習

8月

- ・1・5・23日 人文社会科学部心理実習
- ・5日 総合科学研究科心理実践実習
- ・6日 オープンキャンパス救護

9月

- ・2～6日 職員定期健康診断（上田地区）
- ・11・18・20日 職員定期健康診断尿再検査
- ・24日 人文社会科学部公認心理師実習

10月

- ・1～9日 職員定期健康診断尿再検査
- ・2日 理工学部安全訓練（化学理工学実験Ⅱ担当教職員ならびにTA）
- ・2・31日 10月入学新規留学生健康診断
- ・2日 職員子宮頸がん検診
- ・4日 職員定期健康診断結果配布（上田地区）
- ・8日 麻疹抗体検査（来年度教育実習予定者対象）、電離放射線特殊健康診断（新規X線獣医学科）、蜂抗体検査（職員）
- ・10・11・23日 電離放射線特殊健康診断（新規RI・X線）
- ・16・17日 第62回全国大学保健管理研究集会（神戸大学）
- ・19・20日 不来方急救護
- ・21日 ボクシング部健康診断
- ・21日～ 麻疹抗体検査結果配布
- ・29日 防災訓練（3丁目北地区）

11月

- ・5日 VDT特殊健康診断

12月

- ・12月中 ストレスチェック産業医面接／長時間労働者産業医面談
- ・1～16日 世界エイズデー 啓蒙活動
- ・18日 振動・騒音特殊健康診断
- ・19・20日 職員乳がん検診
- ・25・26日 ウィンターセッション救護

1月

- ・18・19日 大学入学共通テスト救護
- ・21・22日 有機溶剤・特定化学物質特殊健康診断（第2回）
- ・29日 電離放射線特殊健康診断（新規RI）

2月

- ・4日 有機溶剤・特定化学物質特殊健康診断（第2回）
- ・12日 第2回保健管理センター運営委員会
- ・19・20日 特定業務従事者健康診断第2回定期健康診断
- ・19日 附属校園養護教諭との健康管理に関する会議（オンライン）
- ・28日 獣医師資格申請のための健康診断

3月

- ・15・21日 特定業務従事者健康診断第2回定期健康診断
- ・13日 獣医師資格申請のための健康診断
- ・17・25日 電離放射線特殊健康診断（新規RI）
- ・24日 修了式・卒業式救護

*医療講習会、各種健診についての詳細は、Ⅲ-4・5、Ⅲ-9-1）各業務報告参照。

*入試関係の救護は省略（Ⅲ-8救護活動参照）。

2. 健康相談

1) 健康相談・学生相談日程

担当	連絡先	場所	曜日	利用時間
I 健康相談 医師 小野田 敏行 保健師 長沼 敦子 保健師 茅平 鈴子 保健師 阿部 智子	019-621-6074 E-mail : kenkou@iwate-u.ac.jp	学生センターA棟1階 保健管理センター	月 金	9:00~17:00
II 学生相談 カウンセラー 早坂 浩志			月 金	9:00~17:00 (予約すれば18:00まで可能)
カウンセラー 立原 聖子			月	
カウンセラー 大竹 美貴子	019-621-6073 E-mail : gakusou@iwate-u.ac.jp	学生センターA棟2階 学生相談室ほか	火 木	13:00~17:00 (受付は16:00まで)
カウンセラー 遠藤 麻友美 ※英語による相談可			水 金	
カウンセラー 豊田 洋子				

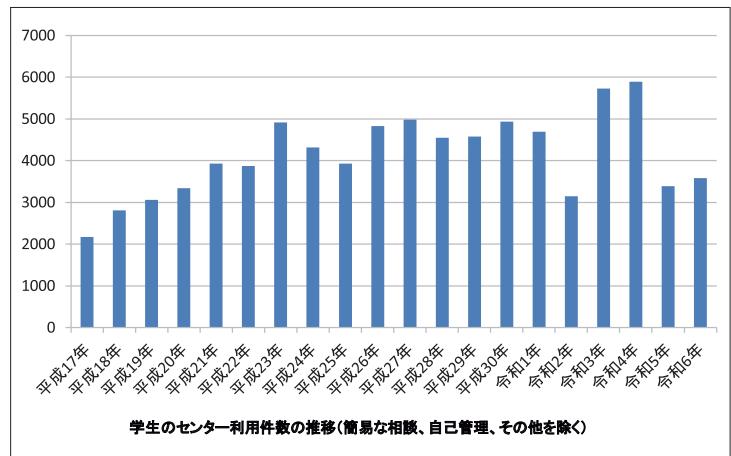
2) 来所理由別利用状況（令和6年4月～令和7年3月）

心身ともに健康な学生生活を送れるよう医師・保健師が健康相談を行っている。

科目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
内科	学生	68	57	50	52	10	21	50	46	48	29	19	9	459
	職員	9	5	8	12	7	6	17	8	6	3	12	9	102
外科	学生	18	47	50	67	15	16	37	48	16	24	7	4	349
	職員	4	1	2	5	0	5	10	6	14	17	5	10	79
眼科	学生	4	6	2	1	0	0	3	4	0	0	0	2	22
	職員	0	1	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	5
耳鼻科	学生	4	8	1	0	0	1	2	2	1	2	1	0	22
	職員	0	3	2	1	0	0	1	0	0	0	2	0	9
泌尿器科	学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
皮膚科	学生	8	9	13	21	2	6	9	12	5	3	4	1	93
	職員	0	0	3	1	5	5	0	1	2	0	1	0	18
婦人科	学生	33	25	15	9	0	2	8	4	37	17	1	2	153
	職員	1	2	1	1	0	0	1	5	2	1	2	1	17
歯科	学生	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	7
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
精神科	学生	38	37	25	20	9	18	42	30	25	20	8	10	282
	職員	0	2	2	0	2	2	3	1	3	4	1	2	22
相談	学生	286	232	210	173	79	102	272	203	182	217	123	99	2178
	職員	7	9	15	13	5	10	10	8	17	14	7	10	125
禁煙支援	学生	0	1	4	2	0	0	0	3	6	3	0	0	19
	職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	学生	459	425	372	345	115	166	423	353	320	315	163	128	3584
	職員	21	23	34	34	19	28	42	30	44	42	30	32	379
自己管理	学生	28	37	29	73	41	44	68	49	57	51	37	23	537
	職員	14	16	17	18	11	9	12	17	16	14	14	20	178
簡易な相談	学生	22	4	4	1	3	1	0	3	2	0	1	1	42
	職員	2	6	1	5	3	7	0	1	5	0	0	4	34
その他の	学生	204	141	74	28	8	32	29	6	2	5	6	4	539
	職員	4	37	6	5	9	52	105	47	21	11	6	22	325
小計	学生	254	182	107	102	52	77	97	58	61	56	44	28	1118
	職員	20	59	24	28	23	68	117	65	42	25	20	46	537
計		754	689	537	509	209	339	679	506	467	438	257	234	5618

3) 証明書発行件数

証明書発行	学生	職員
センター発行	200	2
自動発行機発行	563	



3. 学生相談室活動報告

表1 性別来談者数

性別	来談者数	%
男 性	208	47.3
女 性	230	52.3
その他の不明	2	0.5
合 計	440	100.0

表2 学年別来談者数

学年	来談者数	%
1 年 生	50	11.4
2 年 生	56	12.7
3 年 生	81	18.4
4 年 生*	153	34.8
修士課程学生	43	9.8
博士課程学生	6	1.4
教職員**	30	6.8
その他の	14	3.2
不明	7	1.6
合 計	440	100.0

*農学部獣医学科5,6年生・留年生を含む

**教職員の学生の件での相談は含まない

表5 相談形態別の來談者数

形態	相談回数	%
面接	1684	69.7
電話	247	10.2
電子メール	446	18.5
その他の	39	1.6
合 計	2416	100.0

表7 相談内容別來談者数

相談内容	来談者数	%
心理性格	268	60.9
対人関係*	66	15.0
心身健康	28	6.4
進路修学	68	15.5
学生生活	5	1.1
その他の	5	1.1
合 計	440	102.3

*ハラスメント相談を含む

表3 所属別來談者数

所属	来談者数	%
人文社会科学部	92	20.9
教育学部	42	9.5
理工学部	154	35.0
農学部	110	25.0
教職員	30	6.8
その他の	12	2.7
不明	0	0.0
合 計	440	100.0

表4 来談経路別來談者数

(常勤カウンセラーの対応分)

来談経路	来談者数	%
入学時オリ・健診	40	11.7
ポスター・ウェブ	38	11.1
友人の勧め	19	5.6
センター診療室の勧め	25	7.3
教職員の勧め	21	6.2
家族の勧め	13	3.8
カウンセラーの講義	11	3.2
教職員・家族の来談	53	15.5
継続・再来・その他の	109	32.0
不明	12	3.5
合 計	341	100.0

表6 相談対象別の來談者数

対象	相談回数	%
学生(本人)	1753	72.6
(教職員)	342	14.2
(家族)	161	6.7
教職員	132	5.5
その他の	28	1.2
合 計	2416	100.1

表8 相談内容別の來談者数

相談内容	相談回数	%
心理性格	1606	66.5
対人関係	281	11.6
心身健康	287	11.9
進路修学	224	9.3
学生生活	10	0.4
その他の	8	0.3
合 計	2416	100.0

*来談者一人あたりの平均面接時間 50.2分

4. 学生定期健康診断

1) 令和6年度（2024）の学生定期健康診断について

新型コロナウイルス感染症は、5類移行となったが依然感染は流行を繰り返している状況であるため、4月の学生定期健康診断等の実施においては、十分な感染対策した上での実施が必要と考え、昨年同様の実施内容で以下のように実施した。

＜健康診断の実施日程および内容＞

【学部1年生・編入生・1年目の留学生】

項目：内科診察、身長体重測定、胸部エックス線検査、健康診断票チェック

必要に応じて再検査（再診察、心電図、貧血検査等）を実施。

10月入学の新規留学生には、別途（10月2日）実施。

日程は下表のとおり

月 日	曜日	受付時間	対 象 学 部	
4月9日	火	AM 9:00~10:00	人文社会学部	男
		AM 10:00~11:00	農学部	男
		AM 11:00~12:00	理工学部	女
		PM 1:30~2:30	人文社会学部	女
		PM 2:30~3:30	農学部	女
		PM 3:30~4:00	全学部	男女
4月10日	水	AM 9:00~10:00	理工学部（化学・生命理工学科、物理・材料理工学科）	男
		AM 10:00~11:00	教育学部	男
		AM 11:00~12:00	教育学部	女
		PM 1:30~3:30	理工学部（システム創成工学科）	男
		PM 3:30~4:00	全学部	男女

【学部2年生以上・大学院生等（大学院1年生含む）】

項目：Web問診（二次元コード掲示）回答、身長体重自己測定

（エントランスホールに自動身長体重計2台設置）

期間：4月～6月末（期間内に受診できず、相談があった学生に対しては都度実施）

提出されたWeb問診内容を医師が確認し、必要な学生は呼び出しにて診察または保健指導（面談・電話）を行った。

●内科診察呼出実施数：19名 / 保健師面談実施数15名 / 電話確認127名

※以上をもって今年度の健康診断受診済とし、健康診断証明書を発行した。

※健康診断機関（岩手県予防医学協会）の胸部エックス線検査料金が改訂となり、学生健康診断経費が75万円程度増額となった。

（胸部エックス線検査 990円／人 ➔ 1,650円／人）

2) 令和6年度(2024) 学年・学部・受診項目別受診者数並びに受診率

学年	学部・研究科	学生数	身体計測			内科		
			対象者数	受診者数(人)	率(%)	対象者数	受診者数(人)	率(%)
1年	人社	210	210	210	100	210	210	100
	教育	171	171	171	100	171	171	100
	理工	466	466	466	100	466	466	100
	農学	244	244	243	99.6	244	243	99.6
1年計		1091	1091	1090	99.9	1091	1090	99.9
2年	人社	214	214	188	87.9	214	188	87.9
	教育	177	177	168	94.9	177	168	94.9
	理工	437	437	354	81.0	437	354	81.0
	農学	237	237	201	84.8	237	201	84.8
2年計		1065	1065	911	85.5	1065	911	85.5
3年	人社	216	216	178	82.4	216	178	82.4
	教育	166	166	155	93.4	166	155	93.4
	理工	466	466	327	70.2	466	327	70.2
	農学	246	246	189	76.8	246	189	76.8
3年計		1094	1094	849	77.6	1094	849	77.6
4年	人社	249	249	175	70.3	249	175	70.3
	教育	186	186	160	86.0	186	160	86.0
	理工	537	537	340	63.3	537	340	63.3
	農学	261	261	185	70.9	261	185	70.9
4年計		1233	1233	860	69.7	1233	860	69.7
獣5年	農学	32	32	19	59.4	32	19	59.4
獣6年	農学	39	39	30	76.9	39	30	76.9
獣医5,6年計		71	71	49	69.0	71	49	69.0
院修1年		341	341	291	85.3	341	291	85.3
院修2年		340	340	273	80.3	340	273	80.3
院博1年		33	33	18	54.5	33	18	54.5
院博2年		26	26	11	42.3	26	11	42.3
院博3年		54	54	18	33.3	59	18	30.5
院博4年		5	5	2	40.0	5	2	40.0
院計		799	799	611	76.5	799	611	76.5
その他	人社	30	30	22	73.3	30	22	73.3
	教育	14	14	8	57.1	14	8	57.1
	理工学	21	21	15	71.4	21	15	71.4
	農学	7	7	7	100	7	7	100
その他計		72	72	52	72.2	72	52	72.2
国際教育センター科目等履修生		20	20	2	10.0	20	2	10.0
総計		5445	5445	4424	81.2	5445	4424	81.2
(昨年度)		5443	5443	4233	77.8	5439	4233	77.8

*院修は、総合科学研究科・教育学研究科を示す。

*院博は、工学研究科・理工学研究科・獣医学研究科・連合農学研究科（本学所属学生のみ）を示す。

*その他は学部研究生及び特別聴講生、大学院研究生及び特別聴講生を示す。

3) 胸部エックス線検査

学部	学年	対象者数	受診者数 (率%)	有所見者数 (率%)	精密検査
人文社会科学部	1年	210	210 (100)	1 (0.5)	1
	2年	0	—	—	—
	3年	11	11 (100)	0 (—)	—
	4年	0	—	—	—
	合 計	221	221 (100)	1 (0.5)	1
教育学部	1年	171	170 (99.4)	0 (—)	—
	2年	0	—	—	—
	3年	0	—	—	—
	4年	0	—	—	—
	合 計	171	170 (99.4)	0 (—)	—
理 工 学 部	1年	466	466 (100)	0 (—)	—
	2年	0	—	—	—
	3年	12	12 (100)	0 (—)	—
	4年	1	1 (100)	0 (—)	—
	合 計	479	479 (100)	0 (—)	—
農 学 部	1年	244	243 (99.6)	0 (—)	—
	2年	0	—	—	—
	3年	0	—	—	—
	4年	0	—	—	—
	獣4・5・6年	0	—	—	—
	合 計	244	243 (99.6)	0 (—)	—
留 学 生		26	26 (100)	0 (—)	0
総 計		1141	1139 (99.8)	1 (0.1)	1

○学部1年生、編入学生、転入生、入学1年未満の留学生を対象に胸部エックス線検査（DR撮影）を行った。

『留学生』とは、入学1年未満の大学院生、研究生等を指す。

学部1年、編入の留学生は、学部1年、学部3年の対象とする。

有所見者の1名は精密検査となった。精密検査の内容は、「右骨陰影異常」で医療機関を受診したが「異常なし」だった。

未受診者2名は、休学等のため受診できなかった。

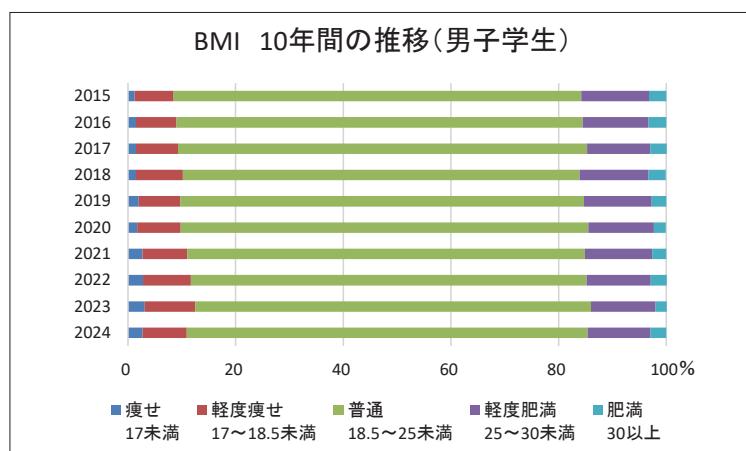
○10月入学の留学生に対し胸部エックス線検査を行った。

留 学 生	対象者数	受診者数 (率%)	有所見者数 (率%)	精密検査
	37	37 (100)	0 (—)	—

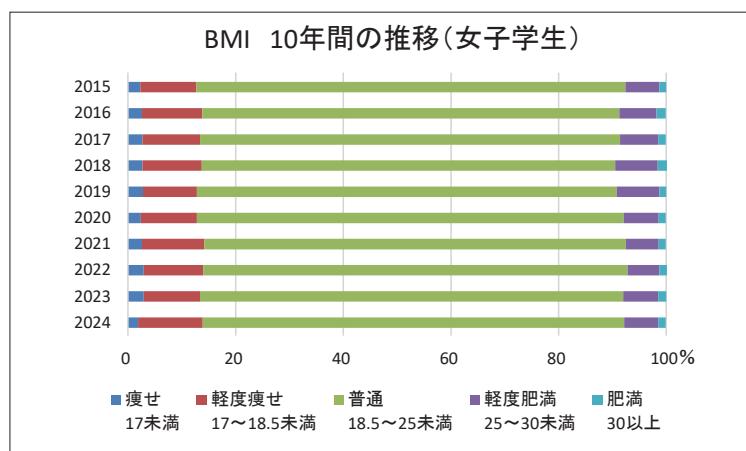
有所見者はいなかった。

4) BMIの推移

男子 (%)					
年度	痩せ 17未満	軽度痩せ 17~18.5未満	普通 18.5~25未満	軽度肥満 25~30未満	肥満 30以上
2015	1.2	7.3	75.7	12.6	3.2
2016	1.5	7.5	75.5	12.2	3.3
2017	1.5	7.8	76.0	11.7	3.1
2018	1.5	8.7	73.7	12.8	3.2
2019	2.0	7.7	75.0	12.6	2.7
2020	1.7	8.1	75.7	12.2	2.2
2021	2.7	8.3	73.9	12.5	2.6
2022	2.8	8.9	73.5	11.9	3.0
2023	3.1	9.4	73.5	12.0	2.1
2024	2.7	8.2	74.5	11.6	3.0



女子 (%)					
年度	痩せ 17未満	軽度痩せ 17~18.5未満	普通 18.5~25未満	軽度肥満 25~30未満	肥満 30以上
2015	2.3	10.4	79.7	6.3	1.3
2016	2.6	11.2	77.5	6.9	1.7
2017	2.7	10.7	78.0	7.1	1.4
2018	2.7	11.0	76.8	7.9	1.7
2019	2.8	10.0	78.0	7.9	1.3
2020	2.4	10.4	79.3	6.5	1.3
2021	2.6	11.6	78.3	6.1	1.3
2022	2.9	11.1	78.8	5.9	1.4
2023	2.9	10.5	78.6	6.5	1.5
2024	1.9	12.0	78.3	6.3	1.4



5. 職員定期健康診断

1) 日程

検査日	受付時間	対象部局	対象者
4月24日(水)	6:45~8:30	附属幼稚園 附属小学校 附属中学校	全員
7月25日(木) ~8月8日(木)	9:30~9:45 9:45~10:00 13:00~13:15 14:00~14:15	附属特別支援学校	全員
7月25日(木) ~10月16日(水)	各々	遠方地区(釜石、水沢、北上、花巻、大船渡)	全員
9月2日(月)	8:30~10:00 10:00~11:15	上 田 キ ヤ ン パ ス 周 辺 教育学部 教育学研究科 附属校園 学務部 地域協創教育センター 平泉文化研究センター 教学マネジメントセンター 教員養成支援センター 国際教育センター	男性職員 女性職員
9月3日(火)	8:30~10:15 10:15~11:15	人文社会科学部 技術部(理工・農・情報) 寒冷フィールド(御明神地区) 寒冷フィールド(滝沢地区) ものづくり技術研究センター 研究支援・产学連携センター 保健管理センター	男性職員 女性職員
9月4日(水)	8:30~10:30 10:30~11:15	理工学部 分子接合技術研究センター	男性職員 女性職員
9月5日(木)	8:30~10:15 10:15~11:15	農学部 連合農学研究科 次世代アグリイノベーション研究センター	男性職員 女性職員
9月6日(金)	8:30~10:15 10:15~11:15	法人運営部 監査室 評価室 戦略企画・評価分析室 ダイバーシティ推進室 研究・地域連携部 地域防災研究センター RI総合実験センター	女性職員 男性職員

2) 検査項目(男女共通)

(1) 34歳以下及び36歳~39歳の者

身長、体重、視力、血圧、尿(糖、蛋白、潜血)、血液(脂質(中性脂肪、HDLコレステロール、LDLコレステロール)、貧血(赤血球数、血色素量、MCH)、肝機能(GOT、GPT、γ-GTP)、血糖(HbA1c)、尿酸値)、胸部X線撮影、聴力、腹囲、内科

(2) 35歳の者及び40歳以上の者

(1) の項目に、心電図が加わる。

3) 学内健診・人間ドック等の受診者数

		対象者	受 診 内 訳		受 診 者 数 (率)
			学内健診 受診者数	人間ドック・ 他医療機関 受診者	
上 田 キ ャ ン パ ス 等 事 業 場	役員・法人運営部・監査室・評価室・戦略企画室・評価分析室・ダイバーシティ推進室	138	114	24	138 (100)
	研究地域連携部・研推・地連・研産連セ・情基・R I ・地防セ・ものづくりセ・次世代アグリ	61	45	16	61 (100)
	学務部・教学マ・教養支セ・保管セ・国教セ・入試セ・平泉セ・地社教	93	76	17	93 (100)
	人文社会科学部	71	54	16	70 (98.6)
	教育学部・教育学研究科	81	69	12	81 (100)
	理工学部	158	121	37	158 (100)
	農学部・連合農学研究科	157	135	21	156 (99.4)
	技術部 (VI、VII事業場の勤務者を除く)	55	47	8	55 (100)
	釜石地区	9	3	6	9 (100)
附属幼稚園事業場		12	7	5	12 (100)
附属小学校事業場		38	32	6	38 (100)
附属中学校事業場		35	32	3	35 (100)
附属特別支援学校事業場		37	34	3	37 (100)
寒冷フィールドサイエンス教育研究センター(滝沢地区)事業場		16	16	0	16 (100)
寒冷フィールドサイエンス教育研究センター(御明神地区)事業場		12	12	0	12 (100)
合 計		973	797	174	971 (99.8)

*雇入時健診受診のため定期健康診断を省略した者は対象者に含まないこととする。

4) 尿検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	尿 蛋 白	尿 潜 血	尿 糖
		有所見者数 (率)	有所見者数 (率)	有所見者数 (率)
男	438	2 (0.5)	11 (2.5)	14 (3.2)
女	321	0 (0)	16 (5.0)	2 (0.6)
計	759	2 (0.3)	27 (3.6)	16 (2.1)

5) 貧血検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	血 色 素 量	赤 血 球 数	貧 血
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	440	11 (2.5)	5 (1.1)	10 (2.3)
女	358	68 (19.0)	3 (0.8)	68 (19.0)
計	798	79 (9.9)	8 (1.0)	78 (9.8)

6) 肝機能検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	G O T	G P T	γ -GTP	肝機能異常
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	440	65 (14.8)	122 (27.7)	115 (26.1)	98 (22.3)
女	358	18 (5.0)	25 (7.0)	32 (8.9)	24 (6.7)
計	798	83 (10.4)	147 (18.4)	147 (18.4)	122 (15.3)

7) 脂質検査（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	受診者数	LDLコレステロール	HDLコレステロール	中 性 脂 肪	脂 質 異 常
		有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）	有所見者数（率）
男	440	234 (53.2)	11 (2.5)	92 (20.9)	140 (31.8)
女	358	149 (41.6)	1 (0.3)	25 (7.0)	80 (22.3)
計	798	383 (48.0)	12 (1.5)	117 (14.7)	220 (27.6)

8) 血糖検査・胸部X線・血圧（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性 別	血 糖 檢 查		胸 部 X 線 間 接 撮 影		血 圧 測 定	
	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）	受診者数	有所見者数（率）
男	440	38 (8.6)	441	3 (0.7)	442	87 (19.7)
女	358	8 (2.2)	355	5 (1.4)	358	38 (10.6)
計	798	46 (5.8)	796	8 (1.0)	800	125 (15.6)

9) 便潜血・胃・心電図（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性別	便潜血検査		胃検査		心電図	
	受診者数	有所見者数(率)	受診者数	有所見者数(率)	受診者数	有所見者数(率)
男	145	8 (5.5)	88	22 (25.0)	373	35 (9.4)
女	121	6 (5.0)	68	29 (42.6)	273	23 (8.4)
計	266	14 (5.3)	156	51 (32.7)	646	58 (9.0)

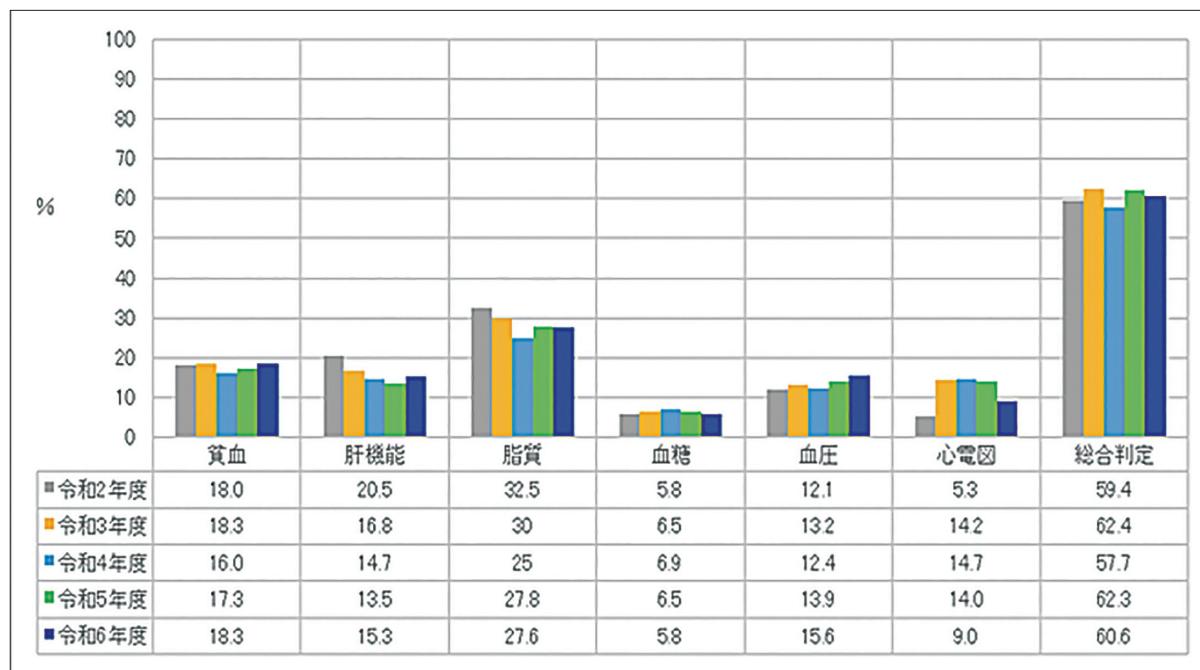
10) 総合判定（人間ドック・他の医療機関受診者、及び雇入時健診受診済みで胃と便検査のみ実施者を除く）

性別	総合判定	
	受診者数	有所見者数(率)
男	442	296 (67.0)
女	358	189 (52.8)
計	800	485 (60.6)

11) 事後指導

性別	対象者数	実施数(率)
男	100	100 (100)
女	98	98 (100)
計	198	198 (100)

12) 検査項目別有所見者率の推移



6. 特殊健康診断等

		対象		実施日	該当者	結果	受診率(%)
電離放射線	①RI総合実験センターに従事者登録となる者、 ②動物病院でエックス線業務に従事する者、 ③福島県除染特別地域で研究業務に従事する者	職員(動物病院) 学生(RI)	新規	4月11日、 16日、22日	職員1名 学生5名	全員 異常なし	100
		職員(動物病院)	新規	6月13日	職員1名	異常なし	100
		従事する全職員 及び学生	第1回 継続	7月16日	職員63名 学生85名	全員 異常なし	100
		職員(動物病院) 学生(RI)	新規	7月23日	職員1名 学生1名	1名:異常なし 1名:有所見(管理T)	100
		職員(動物病院) 学生(RI)	新規	8月5日	職員1名 学生2名	全員 異常なし	100
		職員(RI) 学生(RI、動物病院)	新規	10月8日、10日、 11日、23日	職員1名 学生34名	全員 異常なし	100
		学生(RI)	新規	1月29日	学生1名	異常なし	100
		従事する全職員 及び学生	第2回 継続	1月6日、15日	職員65名 学生120名	全員 異常なし	100
		職員(RI) 学生(RI)	新規	3月17日、25日	職員3名 学生14名	全員 異常なし	100
		職員	第1回	7月23日、24日	10名	9名:異常なし 1名:有所見(管理R)	100
有機溶剤 特定化学物質	年間一定量以上の使用 (見込み)のある研究室	学生			72名	66名:異常なし 6名:有所見(管理R)	100
		職員	第2回	1月21日、22日、 2月4日	9名	8名:異常なし 1名:有所見(管理R)	100
		学生			56名	48名:異常なし 8名:有所見(管理R)	100
VDT作業	VDT作業従事者	職員	-	11月5日	19名	5名:異常なし 11名:有所見(管理B) 3名:有所見(管理R)	100
じん肺	じん肺業務従事者	職員	-	1月16日	1名	所見なし	100
振 騒 動 音	チェーンソー等使用による身体に著しい振動を与える業務及び強烈な騒音を発する場所における業務に従事する者	職員	第1回	6月27日	8名	5名:異常なし 1名:有所見(管理B) 2名:有所見(管理R)	100
		職員	第2回	12月18日	8名	5名:異常なし 1名:有所見(管理B) 2名:有所見(管理R)	100

(注) 管理T:有所見の原因は当該業務以外であり、治療が必要

管理R:有所見の原因は当該業務以外にあるが、当該業務に従事することで増悪のおそれがあり、就業制限が必要

管理B:有所見の原因は当該業務にあり、検診または就業制限が必要

7. その他の健康診断

		対象		実施日	該当者	結果	受診率(%)
腸内細菌検査	附属学校及び附属施設において調理業務等に従事する者 ※行事等による臨時の従事者には隨時検査を実施	職員	-	毎月(附属校園は月2回)	6名	全員 異常なし	100
ノロウイルス検査		職員		10~3月にかけて 毎月1回	6名	全員 異常なし	100
定期健康診断	特定業務従事者	職員	第2回	2月19日、20日 3月5日、21日	53名	13名:D1 17名:D2 23名:D3	100
定期健康診断 (人間ドック・他の医療機関受診者)	-	職員	-	4~3月	162名	82名:D1 62名:D2 31名:D3 5名:結果未提出	-
胃がん検診	40歳以上の希望者	職員	-	4~12月	167名	-	-
大腸がん検診	40歳以上の希望者	職員	-	4~12月	291名	-	-
子宮頸がん検診	20歳以上の女性職員で希望者	職員	-	7~2月	114名	-	-
乳がん検診	40歳以上の女性職員で希望者	職員	-	7~2月	93名	-	-

(注) D1:平常の生活でよいが、医師による直接の医療行為が必要な者

D2:平常の生活でよいが、定期的に医師の観察指導が必要な者

D3:平常の生活でよく、医師による直接又は間接の医療を必要としない者

8. 救護活動

件 名	開催月日	従事者数	救護件数(人)
1 令和6年度入学式	4/5(金)	1	1
2 第67回盛岡・つなぎ間ロードレース大会	5/18(土)	4	2
3 令和7年度理工学部編入学試験	6/21(金)	4	0
4 令和7年度農学部編入学試験	6/28(金)	4	0
5 令和7年度総合科学研究科推薦入学試験	7/2(火)	4	0
6 令和6年度岩手大学オープンキャンパス	8/6(火)	4	1
7 令和6年10月入学及び令和7年4月入学第1期総合科学研究科入学試験	8/21(木)、22(木)	各4	0
8 令和6年10月入学及び令和7年4月入学第1期理工学研究科入学試験	8/23(金)	4	1
9 令和6年10月入学及び令和7年4月入学第1期獣医学研究科入学試験	8/23(金)	4	0
10 令和6年10月入学及び令和7年4月入学第1期連合農学研究科入学試験	9/5(木)	4	0
11 令和7年度第1期教育学研究科入学試験	9/28(土)	1	0
12 令和7年度総合型選抜I(理工)第2次選考	10/4(金)	4	0
13 令和7年度人文社会科学部編入学試験	10/8(火)	4	0
14 第75回岩手大学不来方祭	10/19(土)	1	0
	10/20(日)	1	4
15 令和7年度学校推薦型選抜	11/20(水)	6	0
16 R6年度高大連携「ウインターセッション」	12/25(水)、26(木)	各4	0
17 令和7年度総合型選抜II(農学部・獣医学部)	12/27(金)	各4	0
18 令和7年度大学入学共通テスト	1/18(土)	7	4
	1/19(日)	7	3
19 令和7年度第2期教育学研究科入学試験	1/28(火)	4	0
20 令和7年度第2期総合科学研究科入学試験	1/28(火)、29(水)	各4	0
21 令和7年度第2期理工学研究科、第2期獣医学研究科入学試験	1/30(木)	各4	0
22 令和7年度第2期連合農学研究科入学試験	2/6(木)	4	0
23 令和7年度一般選抜・前期日程	2/25(火)	7	8
	2/26(水)	6	0
24 令和7年度一般選抜・後期日程	3/12(水)	6	0
25 令和6年度修了式・卒業式	3/24(月)	1	1
合 計			25

■ : 入試関係救護

9. 健康教育・増進活動

1) 健康セミナー

主にグループ単位での健康教育として、心肺蘇生法、応急処置、健康作りのため食事や運動などのセミナーを実施している。

No.	期日	会場	対象	内容	受講人数			スタッフ	
					職員	学生	計	医師	保健師
1	2024年4月	オンデマンド	化学理工学実験II担当教職員ならびにTA	心肺蘇生法、AED設置場所 その他の応急処置（止血法、熱傷処置、RICE処置他）					
2	2024年4月23日	理工学部 ものづくり協創工房 (銀河ホール2階)	生命コース3年生	心肺蘇生法、AED設置場所 その他の応急処置（止血法、熱傷処置、RICE処置他）	1	27	28	1	1
3	2024年10月2日	理工学部 総合教育研究棟（化学系）109室	化学理工学実験II担当教職員ならびにTA	心肺蘇生法、AED設置場所 その他の応急処置（止血法、熱傷処置、RICE処置他）	2	22	24	1	1
					計	3	49	52	2

2) 禁煙支援

(1) 世界禁煙デーのイベント

世界禁煙デーと禁煙週間のイベントとして、ポスター・書籍の展示、ティッシュの配布を行った。また、昨年同様に敷地内禁煙以前の状況や敷地内禁煙までの経緯を知つてもらうために、2004年からの禁煙対策の取組みについて、エントランスホールに大きく掲示をした。

大学周辺の環境整備は安全衛生管理室の企画した「学外通勤・通学路の清掃活動」と合同で、吸い殻拾いや喫煙者へのマナー指導をおこなった。

5/31～ エントランスホールにポスター掲示

5/31 大学周辺ゴミ拾い・環境整備
(安全衛生管理室企画)



令和6年5月16日

各 位

安全衛生管理室

「世界禁煙デー」に合わせたごみ拾いと禁煙PR活動について

5月31日は「世界禁煙デー」、5月31日～6月6日までは「禁煙週間」です。
「世界禁煙デー」は1989年から始まりました。WHO（世界保健機関）は、喫煙しないことが一般的な社会習慣となることを目指しており、各國の政府・自治体・諸機関・個人に対して喫煙と健康問題の認識を深めること、また適切な対策の実践を求めています。
岩手大学は、「敷地内全面禁煙」です。「世界禁煙デー」および「禁煙週間」を機会に、今一度たばこの害について考えていただければ幸いです。

安全衛生管理室では、世界禁煙デーである5月31日（金）に吸い殻のごみ拾いと禁煙PRを実施します。教職員の皆様もぜひお気軽にご参加ください。（詳細は添付のポスターへ参照）

また、保健管理センターでは、ニコチンバッテ・ニコチンガムなどを使用した禁煙支援を無料で行っております。お気軽にご利用・ご相談ください。

◆2024 WHO 世界禁煙デーのテーマ
Protecting children from tobacco industry interference
(たばこの産業の干渉から子どもたちを守る)

◆令和6年 世界禁煙デーのテーマ
「たばこの健康影響を知ろう！～たばこと COPD の関係～」
※ COPD とは、慢性閉塞性肺疾患

◆厚生労働省 HP : 2024 世界禁煙デーについて
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakuunitsuite/bunya/0000202210_00014.html

**通学路・通勤路を
きれいに
しよう**

日頃お世話になっている
地域のために

5月31日（金）の「世界禁煙デー」に併せて、下記活動を行います。
ご協力いただける教職員の皆様はぜひご参加ください。

**日時
場所**
5月31日（金）15:00～16:00
理工学部東門および北門付近
※雨天の場合は、6月3日（月）15:00～16:00に行います
※小学生の下校時間に合わせて設定しています

**活動
内容**
① 禁煙及びマナー啓発のビラ配布、
喫煙者へのマナー指導（担当職員が行います）
② 吸い殻その他ごみ拾い
③ 小学生の下校の見守り
(喫煙者を避けて車道に出ることがないように)

集合場所
理工学部1号館玄関前（事前申込不要）
活動時間の5分前までにお集まりください
軍手、ゴミ袋等はこちらで用意します

本件問合せ先：岩手大学 安全衛生管理室
(TEL: 621-6033)

(2) 禁煙支援数

令和6年度（2024）の禁煙支援学生は、5名（男5名、女0名）。

3) 性の健康教育活動

6月のHIV検査普及週間、12月1日の世界エイズデーのイベントとして、エントランスホールに、エイズに関するポスターや資料等を掲示し、パンフレット、コンドーム等の配付を行った。

岩手県細胞検査士会が行っている子宮頸がん検診啓発活動のアンケート調査に協力した。

6月 HIV検査普及週間



子宮頸がん検診啓発



12月 世界エイズデー



4) 講義・講演（学内）

1. 講 義

小野田敏行 教養教育科目「健康スポーツA」（分担）
人文社会科学部専門教育科目「健康管理論」
人文社会科学部専門教育科目「関係行政論」
農学部専門教育科目「農学のための倫理」（分担）
農学部専門教育科目「公衆衛生学」

早坂 浩志 教養教育科目「心の理解」
教養教育科目「健康スポーツA」（分担）
大学院総合科学研究科「臨床心理面接特論Ⅰ」
大学院総合科学研究科「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」（分担）
大学院総合科学研究科「人間健康科学総合演習Ⅰ・Ⅱ」（分担）

立原 聖子 教養教育科目「心の理解」
教養教育科目「健康スポーツA」（分担）

2. 講 演

小野田敏行 4月中 理工学部【化学理工学実験Ⅱ】安全講習会オンデマンド配信
4月2日 新採用者研修
7月18日 衛生管理者受験準備講習会
10月2日 理工学部【化学理工学実験Ⅱ】安全講習会
10月3日 放射線診療従事者の教育訓練
10月28日 衛生管理者受験準備講習会

早坂 浩志 4月2日 新採用者研修

立原 聖子 6月12日 岩手大学メンタルヘルス研修「セルフケア」

10. 他部局との共催及び地域貢献

1) 共催

(1) AED講習会

平成17年3月にAED（自動体外式除細動器）を上田地区3台、附属小学校・中学校・特別支援学校に各1台設置したことにより、17年度から教職員対象にAED講習会を実施している。この講習は、盛岡中央消防署上田出張所の協力により実施し、修了者には普通救命講習Ⅰ修了証が交付されている。尚、この事業は安全衛生管理室との共催実施となっている。現在、延べ420名修了している。

（※現在のAED設置数18台：上田地区11台（放送大学、がんちゃん保育園も含む）、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、特別支援学校、滝沢農場、滝沢演習林、御明神総合施設各1台）

No.	期日	時間	受講人数	会場
1	2024年9月27日(金)	10:00～12:00	14	図書館2階 生涯学習・多目的学習室
計			14	

(2) FD・SD研修会

令和6年度学生支援を考えるFD・SD研修会（学生特別支援室と共催）

日程：令和7年3月10日(月)～3月31日(月)

方法：YouTubeでのオンデマンド配信

内容：講義「ハラスメントの防止と合理的な配慮について」

2) 地域貢献

(1) 実習の受け入れ

実習生所属先	実習生人数	実習期日	実習内容
岩手大学 総合科学研究科	6	令和6年7月29日(月) 令和6年8月5日(月)	心理実践実習
岩手大学 人文社会科学部	11	令和6年8月1日(木) 令和6年8月5日(月) 令和6年8月23日(金)	心理実習
岩手医科大学医学部	4	令和6年5月～7月	公衆衛生学実習
計	21		

(2) 学外委員会所属状況

- 小野田敏行：盛岡市保健所運営協議会委員、盛岡市介護保険運営協議会委員、盛岡市地域包括支援センター運営協議会委員、盛岡市地域密着型サービス運営委員会、零石町環境審議会委員、岩手県公害審査委員候補者、岩手県准看護師試験委員、独立行政法人労働者健康安全機構岩手産業保健総合支援センター相談員、岩手県地域脳卒中登録運営委員、岩手県がん登録運営委員、岩手県地域心疾患登録運営委員、岩手医科大学客員教授、岩手公衆衛生学会理事、岩手県廃棄物処理施設等設置等専門委員会委員、放送大学客員教授、全国大学保健管理協会評議員および理事
- 早坂 浩志：岩手県いじめ再調査委員、社会福祉法人盛岡いのちの電話研修委員
- 立原 聖子：盛岡少年鑑別支所外部アドバイザー、社会福祉法人盛岡いのちの電話研修委員
- 長沼 敦子：滝沢・零石介護認定審査会委員、矢巾町地域福祉推進審議会委員
- 茅平 鈴子：全国大学保健管理協会東北地方部会保健・看護委員会委員

IV 令和6年度(2024) 保健管理センターの現況

1. 保健管理センター運営委員会
2. 学内委員会所属状況
3. 学会・研修会等出席状況
4. 保健管理センター職員名簿

1. 保健管理センター運営委員会 令和6年度 (2024)

1) 委員会名簿

区分	氏名	所属部局等
委員長	小野田 敏行	保健管理センター長
委員	早坂 浩志	保健管理センター専任教員
〃	立原 聖子	保健管理センター専任教員
〃	長谷川 弓子	人文社会科学部
〃	澤村 省逸	教育学部
〃	平塚 貞人	理工学部
〃	立石 貴浩	農学部
〃	川崎 宏	学務部長

2) 開催記録

第1回 保健管理センター運営委員会

開催日時：令和6年6月3日(月) 15:00～15:25

開催場所：学生センターA棟会議室

議題：1. 副委員長の選出について

2. 2023 (R5) 年度決算及び2024 (R6) 年度予算配分について

3. その他

報告：1. 2023 (R5) 年度健康相談利用状況について

2. 2023 (R5) 年度学生相談利用状況について

3. その他

第2回 保健管理センター運営委員会

開催日時：令和7年2月12日(水) 10:58～11:25

開催場所：学生センターA棟会議室

議題：1. 保健管理センター運営委員会規則の改正について

2. 営利兼業審査について

3. 2025 (R7) 年度学生定期健康診断日程及び検査項目（案）について

4. 2025 (R7) 年度学生特殊健康診断日程（案）について

5. その他

報告：1. 2024 (R6) 年度学生定期健康診断受診状況について

2. 2024 (R6) 年度学生特殊健康診断の実施状況について

3. その他

3) 保健管理センター関連規則改正内容

※第2回保健管理センター運営委員会において、保健管理センター運営委員会規則の一部改正あり。（岩手大学内部質保証に関する実施要項の一部改正に伴う改正）

旧

岩手大学保健管理センター運営委員会規則

平成16年4月1日 制定
令和4年2月21日 最終改正

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手大学保健管理センター規則第8条の規定に基づき、岩手大学保健管理センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 岩手大学保健管理センター（以下「センター」という。）の中期目標・中期計画に関すること。
- 二 センターの管理及び運営の基本方針に関すること。
- 三 センターの予算配分及び決算に関すること。
- 四 センターの評価（健康、ハラスメントに関する学生支援の内部質保証を含む。）に関すること。
- 五 センター職員の兼業兼職審査に関すること。
- 六 センターの外部資金受入審査に関すること。
- 七 その他センターの運営に関する重要事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センター専任教員
- 三 各学部から選出された教員各1名
- 四 学務部長

(任期)

第4条 前条第3号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、議長となる。
- 3 運営委員会に副委員長を置き、委員の互選により選出する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもつ

新

岩手大学保健管理センター運営委員会規則

平成16年4月1日 制定
令和7年2月12日 最終改正

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手大学保健管理センター規則第8条の規定に基づき、岩手大学保健管理センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 岩手大学保健管理センター（以下「センター」という。）の中期目標・中期計画に関すること。
- 二 センターの管理及び運営の基本方針に関すること。
- 三 センターの予算配分及び決算に関すること。
- 四 センターの評価（健康に関する学生支援の内部質保証を含む。）に関すること。
- 五 センター職員の兼業兼職審査に関すること。
- 六 センターの外部資金受入審査に関すること。
- 七 その他センターの運営に関する重要事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 センター長
- 二 センター専任教員
- 三 各学部から選出された教員各1名
- 四 学務部長

(任期)

第4条 前条第3号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、議長となる。
- 3 運営委員会に副委員長を置き、委員の互選により選出する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 運営委員会は、委員の過半数の出席をもつ

て成立する。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第8条 運営委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、学生支援課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるものほか、運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月21日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年1月30日から施行し、平成19年12月25日から適用する。

附 則

この規則は、令和元年5月22日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

て成立する。

2 運営委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 運営委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を運営委員会に出席させ、その意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第8条 運営委員会に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

(庶務)

第9条 運営委員会の庶務は、学生支援課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるものほか、運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年4月21日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年1月30日から施行し、平成19年12月25日から適用する。

附 則

この規則は、令和元年5月22日から施行し、平成31年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

2. 学内委員会所属状況

- 小野田敏行：保健管理センター運営委員会、学生特別支援室運営会議、安全衛生委員会、放射線安全委員会、遺伝子組換え生物等安全委員会、バイオセーフティ委員会、毒物等管理委員会、動物実験委員会、人を対象とする研究倫理審査委員会、人を対象とする研究倫理審査委員会迅速審査
- 早坂 浩志：保健管理センター運営委員会、ハラスメント・性暴力等防止委員会委員および相談員、学生特別支援室運営会議（学生特別支援室室長兼務）、学生支援委員会、人文社会科学部附属こころの相談センター運営委員会
- 立原 聖子：保健管理センター運営委員会、ハラスメント・性暴力等防止委員会相談員、学生特別支援室運営会議
- 長沼 敦子（2024.4.1～12.31）：学生特別支援室運営会議
- 茅平 鈴子（2025.1.1～3.31）：学生特別支援室運営会議

3. 学会・研修会等出席状況

令和6年度（2024）研修関係開催日順

No.	開催月日	件 名	出席者	会 場	備 考
1	5/25(土) ～27(月)	日本学生相談学会第42回大会	早坂 浩志 立原 聖子	東北大学川内北キャンパス/仙台国 際センター 東北大学当番校	早坂先生 学会賞受賞
2	6/29(土)	令和6年度盛岡地区保健師会研修会	茅平 鈴子	ピックルーフ滝沢 小ホール	
3	6/8(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）	
4	7/13(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）	
5	7/11(木) ～12(金)	第61回全国大学保健管理研究集会東 北地方研究集会	○小野田敏行 早坂 浩志 立原 聖子 長沼 敦子 茅平 鈴子 阿部 智子 新村 曜 山本 欣郎 川崎 宏 櫻田 美幸 東 喜洋 高橋 美風	ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING 岩手大学当番校	
6	9月	第39回健康教育研究会Web研修	茅平 鈴子	岩手県予防医学協会オンデマンド配信	
7	9/14(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）	
8	10/16(木) ～17(木)	第62回全国大学保健管理研究集会	小野田敏行 早坂 浩志 立原 聖子 長沼 敦子 ○阿部 智子	神戸国際会議場 神戸大学当番校	
9	11/22(金)	令和6年度東北地区国立大学法人等 安全管理協議会研修	小野田敏行 長沼 敦子 茅平 鈴子 阿部 智子	東北大学当番校 Web開催	
10	12/20(金)	キャリアコンサルタント勉強会	立原 聖子	岩手大学学生センターB棟1F多目的室	
11	1/11(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）	
12	1/31(金)	令和6年度 子ども・若者の自殺予防 「SOSの受け止め方研修」	阿部 智子 上家 いよ	岩手県立県民生活センター 大ホール	
13	2/19(木)	性感染症に関する講演会	茅平 鈴子 上家 いよ	盛岡市保健所 Web開催	
14	3/8(土)	仙台学生相談事例研究会	立原 聖子	東北大学学生相談所（仙台市）	
15	3/29(土)	第36回岩手公衆衛生学会学術集会	小野田敏行	岩手県民情報交流センター（アイ ナ）812会議室	

* 氏名欄の○印：発表者

○日本学生相談学会第42回大会で学会賞を受賞

5月25日～27日に東北大学・仙台国際センターで開催された「日本学生相談学会第42回大会」で早坂浩志准教授が学会賞を受賞しました。

この賞は、学会への多大な貢献に対し授与されるものです。

早坂准教授は、学会の常任理事や事務局長として学会の運営において中心的役割を担い、「学生相談機関ガイドライン」「学生の自殺防止のためのガイドライン」「発達障害学生の理解と対応について」等の策定、公表に尽力し、我が国の学生相談の発展と学会のプレゼンス向上に大きく貢献したことが評価されました。



4. 保健管理センター職員名簿 令和6年度 (2024)

職名	所属部局等	備考
センター長・教授	小野田 敏行	産業医
准教授	早坂 浩志	カウンセラー
准教授	立原 聖子	カウンセラー
保健師	長沼 敦子	H16.4.1～R6.12.31
保健師	茅平 鈴子	
保健師	阿部 智子	
保健師	上家 いよ	R7.1.1～
安全衛生管理室	平賀 舞	衛生管理者 R6.4.1～
カウンセラー(非)	豊田 洋子	H23.10～
カウンセラー(非)	大竹 美貴子	H28.4～
カウンセラー(非)	遠藤 麻友美	H31.4～

岩手大学保健管理センター紀要

第51・52合併号
令和8年2月 発行

編集 〒020-8550 盛岡市上田三丁目18番34号
TEL (019) 621-6074
発行 岩手大学保健管理センター
印刷 杜陵高速印刷株式会社
盛岡市川町23番2号
盛岡中央工業団地
TEL (019) 651-2110



この冊子は環境に配慮した
用紙を使用しています。